

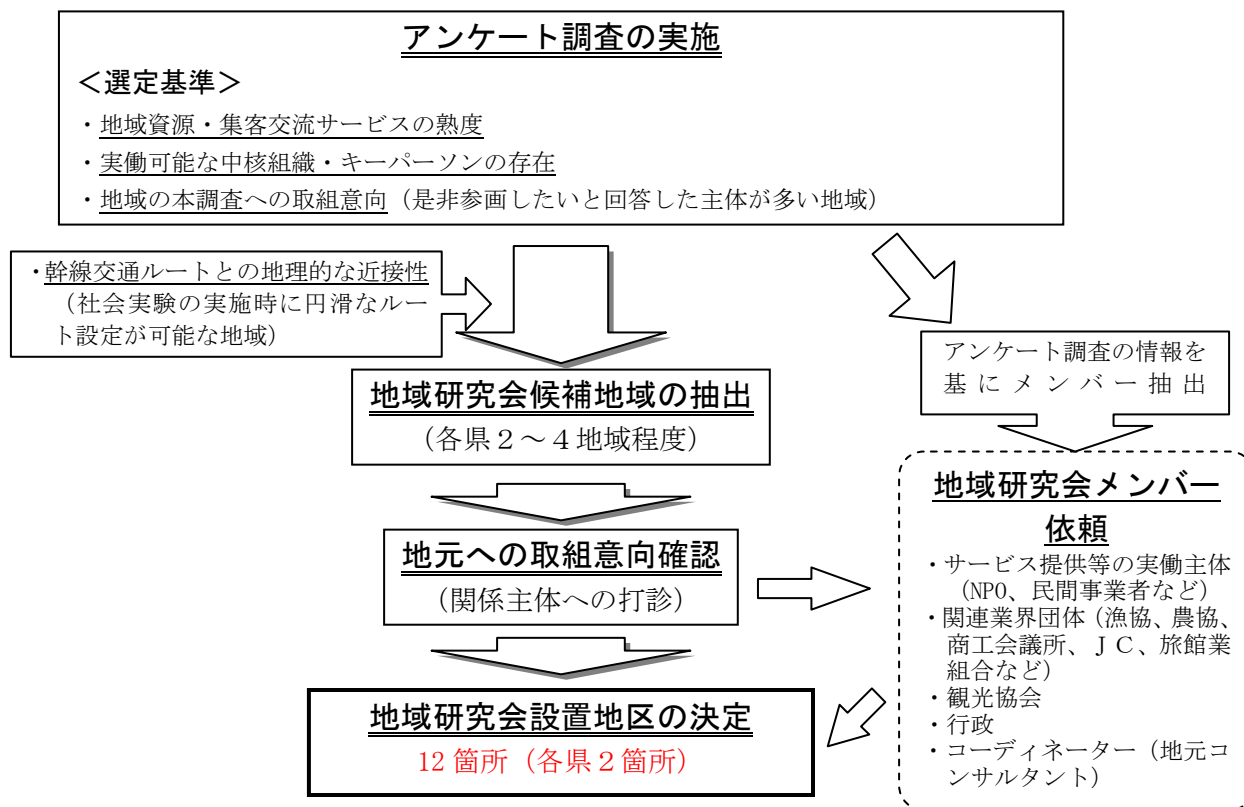
第2章 地域からのスローツーリズムの創出

～地域研究会の設置と運営

1. 地域研究会の設置と運営

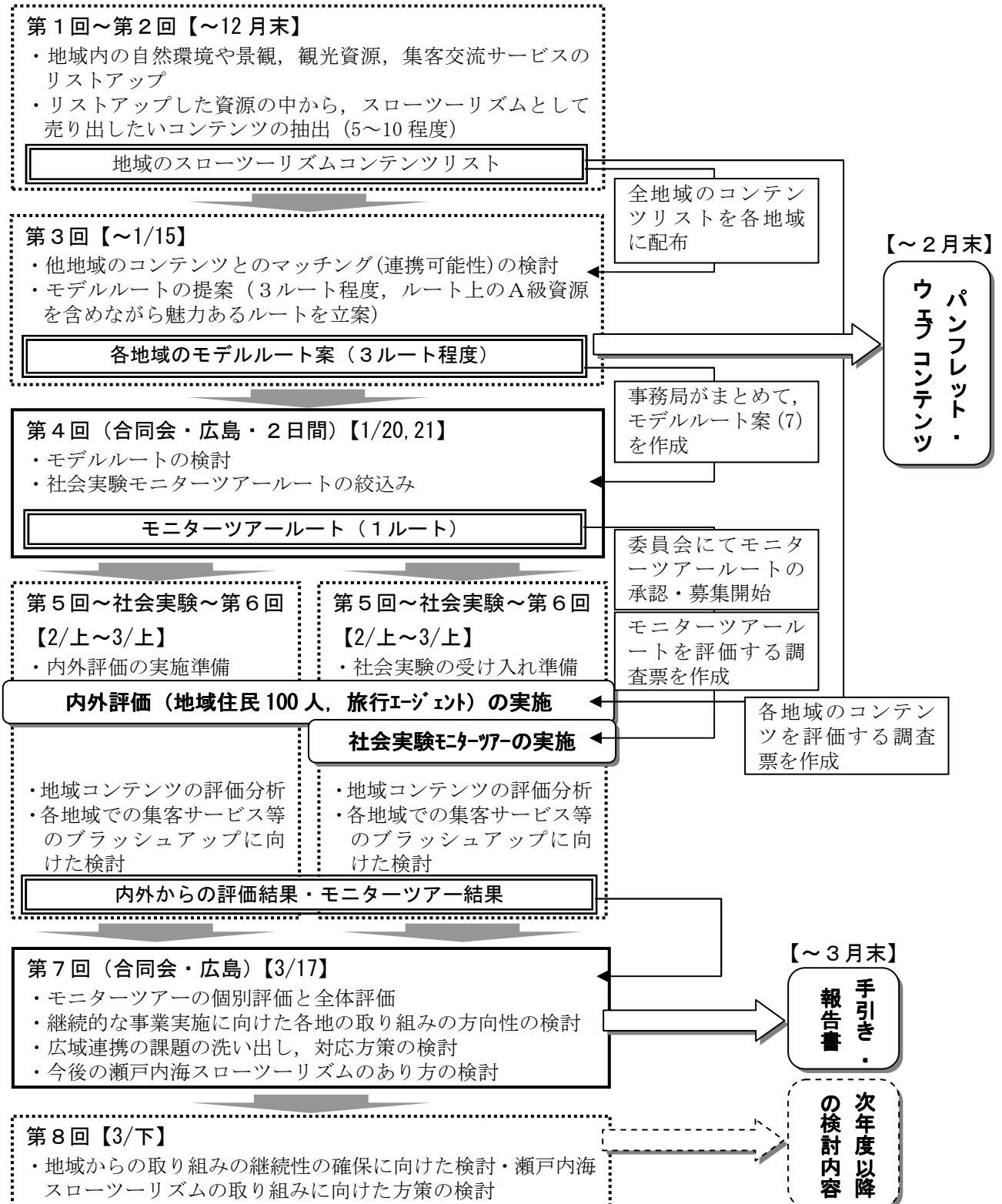
(1) 地域研究会の設置

地域からのスローツーリズムの創出を図るため、瀬戸内海沿岸域の地域資源・集客交流サービスの熟度や実働可能な中核組織・キーパーソン存在の把握を目的にアンケート調査を実施し、それらをふまえて各県2箇所、計12地域に地域研究会（スローツーリズム研究会）を設置した。地域研究会のメンバーはアンケートで把握された実働主体や関連業界団体、行政などにより構成される。



(2) 地域研究会の運営の流れ

地域研究会は下記のように開催した。最初に地域資源のリストアップを行い、スローツーリズムとして売り出したいコンテンツを抽出した。それに基づき、瀬戸内海スローツーリズムとしてのモデルルートやモニターツアールートを選定し、それらの評価を行った。このような取り組みをふまえ、今後の地域のスローツーリズムの継続と、瀬戸内海スローツーリズムの取り組みについての検討を行った。



(3) 合同会の実施内容

ア. 第4回地域研究会（合同会）

①開催概要

第4回地域研究会として、12地域の研究会メンバーの代表者（最大3名）が集まる合同会を下記の通り開催した。

◆日時：平成18年1月20日（金）、21日（土）

20日（金）13:00～17:00 その後交流会

21日（土）9:00～15:00

◆場所：ホテルグランヴィア広島（3F飛鳥（20日）、4F悠久（21日））

◆参加者：60名程度

地域研究会36名（3名×12地域）

ファシリテーター8名（中国総研）

観光専門家3名

事務局5名（中国運輸局、広島県、中国総研）

オブザーバー数名（国省庁、各県など）

◆目的

- ①瀬戸内海沿岸の12の地域研究会メンバーが一同に会し連携・交流を図る
- ②地域資源の磨き方、新しい集客サービスの創出方法を検討する
- ③モデルルートを検討し、その中からモニターツアールートを選定する

◆タイムテーブル

【1日目（1/20）】3F「飛鳥」

時間	内容
13:00～13:05	あいさつ（中国運輸局及び広島県） 合同会の内容説明
13:05～14:00	瀬戸内海スローツーリズム講演会 （Funk・カロリン氏：広島大学総合科学部助教授） ・最近の観光動向、瀬戸内海観光の方向性など
14:00～15:00	12地域研究会の自己紹介（1地域5分×12地域） ・スクリーンに紹介文又は画像を映し出しながら各地域の紹介を行う（各地域研究会メンバー）
15:00～15:10	（休憩）
15:10～16:50	テーマ別分科会（5分科会程度） ・テーマ別に分かれて、各地の活動内容の紹介や資源の磨き方を検討する。（地域研究会メンバーは各人の興味のあるテーマに分

	<p>かれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマは、歴史、食、体験、ガイド、産業観光 ・各分科会はファシリテーター（地域コンサルタント）が進行する。 <p>15:10 自己紹介と各地域での活動紹介(30分) 15:40 地域における資源の磨き方、売り出し方の意見交換(30分) 16:10 瀬戸内海での連携したPRや商品開発の可能性について意見交換(30分) 16:40 とりまとめ（ファシリテーター）(15分)</p>
16:50～17:00	<p>諸連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明日の予定及び交流会についての連絡 ・モデルルートの発表
(17:30～19:30)	(交流会)

【2日目 (1/21)】 4F 「悠久」

時間	内容
9:00～ 9:05	本日の内容説明
9:05～10:00	<p>モデルルート作成へのアドバイス（観光専門家）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行商品化のポイント、モデルルート作成の注意点 ・各モデルルートのポイント・アドバイス など
10:00～12:00	<p>ルート別分科会（7分科会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルート別に分かれて、モデルルートの内容を検討する。（地域研究会メンバーは自分の地域を含むルートに分かれる） ・観光専門家（1名）が各分科会を回り、各ルート別にアドバイスを受ける。 ・分科会別に2泊3日で周遊可能なA級資源を含む魅力あるモデルルートを作成
12:00～13:00	(昼休憩)
13:00～14:10	<p>モデルルート発表会（7分科会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分科会で検討したモデルルートを発表する
14:10～15:00	<p>社会実験モニターツアールートを選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家3名に加わっていただき参加者の投票によりモニターツアーにふさわしいルートを選定する。 ・地域研究会毎に魅力的なもの1～3位に投票する（1位4点、2位2点、3位1点。専門家の評価は2倍の点数）
15:00	閉会

②瀬戸内海スローツーリズム講演会（フंक・カロリン氏）

第4回地域研究会（合同会）のはじめに、広島大学助教授のフंक・カロリン先生より、「瀬戸内海を楽しむ：スローツーリズムの可能性」と題して講演をいただいた。講演内容（抜粋）は以下の通りである。

瀬戸内海を楽しむ：スローツーリズムの可能性

広島大学総合科学部助教授 フंक・カロリン Dr. Carolin Funck

○スローツーリズムとは

持続可能な観光：

「すべての階級の人々の多様な要求を、充実した観光施設と安定した自然環境において、そして地元住民の利害を配慮しながら最適に満足させる」

ハードとソフトな観光：

ハード

大衆観光
時間的な余裕がない
高速交通手段
決まった予定
自分の生活様式を持ち込む
見学
精神的な準備なし
お土産
好奇心
うるさい

ソフト＝スロー

家族、個人、友人同士旅行
時間的な余裕がある
あまり早くない交通手段
自発的な行動
生活様式を旅行先に合わせる
体験
目的地について事前に学ぶ
思い出、日記、新しい体験
地元、環境への思いやり
静か

○瀬戸内海の魅力

宮島：複合的な観光地

瀬戸田町：耕三寺を出発点とし、観光施設の積極的な開発

瀬戸内海の港町：

- ・鞆ノ浦：江戸時代の港風景
しかし、埋め立て架橋開発による破壊の恐れ
- ・豊町御手洗：江戸時代の町並みが重要伝統建造物群として保存
しかし、高齢化により、維持が難しい

・坂の町並み：尾道

・海で遊ぶ魅力：ヨット、ボート、ジェット、カヤック、釣りなど

・海のネットワークの拠点：海の駅

・自転車の魅力：しまなみ海道

○外国人から見た瀬戸内海

- ・瀬戸内海への訪問率が低い
- ・瀬戸内を一言で言い表すと：
瀬戸内海は土地に深く根ざした文化と息をのむような景色のある、知られていない、歴史豊かな宝である。(女性、USA)
美しく、リラックスできる地域 (女性、ニュージーランド)
瀬戸内海で普通ではないと思ったところは、全体にばらまいたような、様々な大きさの、たくさんの島である。ちょっと迷宮みたいで、私は好きだ。(女性、ルーマニア)
雰囲気がある；景色がいい；美しい (男性、イギリス)

○ドイツのスローツーリズム

- ・ドイツにおける旅行日数：平均 13 日 (2004 年)
- ・ドイツ人の旅先での行動：日光浴、散歩、サイクリング、海水浴などが多い
- ・海の観光地：保養地として始まる
- ・自転車での旅行：長距離自転車道の整備
- ・自動車のない観光地・島

○瀬戸内海の魅力を守る・活用するため：

- ・環境、景観、町並みの保存と再生
- ・新しい開発より土地・建物の再利用
- ・船を中心にアクセス改善、アクセスに関する情報提供

③テーマ別分科会

第4回地域研究会（合同会）では、歴史、食、体験、ガイド、産業観光の5つのテーマに分かれて分科会を行った。分科会での検討内容（抜粋）は以下の通りである。

<歴史>

- ・歴史そのものの捉え方は非常に幅広くて、難しい問題。
- ・最初に資源を出し合い、一時代を切り口にするものと、時代を貫くような切り口のものがあった。
- ・それらをどのように伝えていくのが大事（情報発信）。
- ・各地域のキラークンテンツは売れるが、それ以外のものはなかなか売りにくい。
- ・キラークンテンツに関わる付加価値をどのように付けて、売り出していくかが非常に大事（映画、マスコミを利用する）。
- ・行政に頼むと、個々の施設の名前、特にお店の名前などはなかなか出してもらえない。
- ・来る人が知りたい情報が発信できない。ミスマッチもある。
- ・連携の切り口は様々なものが出た（建物、へんろ、町並み、文学、踊り、戦争と平和等）。
- ・これらの切り口で一番うけたのはタコ。瀬戸内海はタコを中心にしたらどうか。タコサミットをしたらどうかというアイディアも出てきた。
- ・課題はこういう切り口について、誰が周りを引っ張って声をかけていくのか。
- ・戦争と平和という話は、呉市がリーダーシップを発揮するというような、自分が動き出すということがすごく大事。

<食>

- ・何かをやろう、例えば瀬戸内スローツーリズム食の六法というのを作ろう。
- ・スローツーリズムは、食べ物もファーストフードではなくてスローフード。
- ・そうすると地元にあるもの、根ざしたものをしっかり掘り起こす。
- ・地元の人の意識を育てたり、消費者の意識を育てて、それをしっかり食べてもらうためにメディアやいろんなものを使って伝える。
- ・そのための手法として、対決をする。協調する（高松のうどんと徳島のラーメンは昼と夜で食べ比べをする）。
- ・瀬戸内の食をテーマごとに並べて、ストーリーやテーマでつなぐ（例えば魚だったら瀬戸内ウォー、野菜なら瀬戸でお食べな菜。麺だったら瀬戸内三麺鏡、お酒だったら酔いまち物語）。
- ・ルートを示すのではなく、ストーリーでつなげ、それをツーリストに選んでもらい、自分の食の旅をつくってもらって、評価してもらう。
- ・評価の基準は6つ（ヘルシーであること、値段がお手頃であること、おいしいこと、珍しいこと、手間暇がかかっていること、その場でおいしく食べられる雰囲気があること）この6つの基準を瀬戸内食の六法と称して、地元の人と消費者がいっしょに評価をする。
- ・自分らしい自分のストーリーを作っていけるような題材を、出していくことも大切。

<体験>

- ・体験メニューをそれぞれの方に出してもらい、分類した。
- ・自然でアウトドア系は少なく、室内の方が圧倒的に多く、市民が支える体験メニューと、行政や観光業者がやっている体験メニューの2種類ある。
- ・地域の中の独自性や歴史や暮らしに乗った体験を考えている。
- ・地域づくり、町づくりの理念を持つ必要がある。
- ・課題として、人がいない、お金がほしい、ということがある。
- ・市民型の体験観光を進めていくのは運営基盤が非常に大事。
- ・体験メニューの課題として、瀬戸内のスローツーリズムをどう売っていくかという点では、地域独自の体験のテーマを作り出すときに、市民型でいくのか、企業型でいくのか、その辺のやり方というのも大きな分かれ目になる。

<ガイド>

- ・観光ボランティアガイドは実際にいろんな課題が出てきた。例えば、見解の相違。情報がどんどん変化しているから常に勉強が必要。
- ・モチベーションを維持するにはどうしたらいいか。
- ・予算が足りないという課題。特にボランティアガイドをやる方は事務をしたいという人は少ない。そういう部分はどうしてもお金があるので、どうするか。ガイドは無料か、有料かという問題が発生する。
- ・団体さんを案内するエージェントにうまく利用されているということもある。その場合有料にすべき。ボランティアガイドはプロ化を目指すべきだ、という意見もあった。
- ・大人数相手にどうするかという課題に対しては、例えば一人一人ついて廻っていたものをポイントで立ってもらって、対応していったという例が紹介された。
- ・結局は町を愛する気持ちというものを町の人みんなに持ってもらい、みんながガイドになれることが理想である。

<産業観光>

- ・産業観光においては、地元の人たちの産業に対する理解、協力というのがまず、最も重要。産業を見てもらうということで産業自体にとっての非常に大きな効果がある。
- ・産業観光というテーマはいろいろなところにつながり、その産業を見てもらう際にガイドの方がついてもらうということで、産業のことがよくわかり、地域の方もその産業に対するいろんな知識が増え、外から来られた方もその地域に対する見え方が変わってくる。そのことが、産業の振興にもつながりますし、観光が産業を通じてつながってくる。
- ・瀬戸内海沿岸はそういう目で見ると、いろんな環境の中で育まれた豊かな産業が育っている。
- ・いろんな視点で見ると連携してやっていけるようなネタがたくさんある。
- ・課題は、いかに今後情報を交換できるか。

④ルート別分科会

地域研究会から提案されたモデルルートを7つのルートに整理し、2泊3日で周遊可能なA級資源を含む魅力あるモデルルートを作成した。交通機関及び時間、滞在メニュー（場所・時間・観光内容・地元の受け入れ体制）、食事、宿泊、観光客へPRできる魅力（セールスポイント、テーマ性、特徴、魅力）などを検討項目とした。検討結果は以下の通りである。

7つのモデルルートの中から、参加者（地域研究会メンバー＋専門家）の投票により、モニターツアーにふさわしいルートとしてルート6（松山～呉～竹原）を選定した。

< 1 >岡山市～小豆島～高松市

“瀬戸内海の食と自然を巡る”

- ・吉備路をレンタサイクルで周遊
- ・夕食はさわら料理とさわら踊り（さわら連）
- ・醬の郷（小豆島池田町）をレンタサイクルでまわる（山や海へのオプションツアー有り）
- ・レンタサイクルで高松市内～栗林公園を周遊

< 2 >岡山市～高松市～鳴門市・徳島市

“やすらぎと知的体験　せとうちの旅”

- ・吉備路をレンタサイクルで周遊
- ・夕食はさわら料理とさわら踊り（さわら連）
- ・高松では手打ちうどん体験と栗林公園
- ・夜は阿波踊り体験とナイトクルーズ
- ・鳴門公園、大塚国際美術館、一番札所霊山寺

< 3 >倉敷市～高松市～鳴門市・徳島市

“足で楽しむせとうち天国！着にゃあソソソソ食わにゃソソソソ踊らにゃソソソソ”

- ・倉敷美観地区を見学後、オーダーメイドジーンズ作りか源平ゆかりの地めぐり
- ・高松は街並みとうどん店めぐり
- ・徳島では阿波踊り体験、藍染め体験、ひょうたん島クルーズ
- ・鳴門ではうずしお観潮船と歩き遍路

< 4 >倉敷市～新居浜市～松山市

“デニムと銅と緋の夢紀行　あなたの知らない瀬戸内と出会うたび”

- ・下津井の町並みとアパレル工場見学
- ・鷺羽山からの瀬戸内海の眺望
- ・マイントピア別子と広瀬歴史記念館など

- ・昼食はスローフードパーティー
- ・道後散策、砥部焼体験、絣染め体験、「坂の上の雲」めぐり、足湯めぐりなど

< 5 > 竹原市～倉敷市～高松市

“せとの多島美とまちなみの歴史めぐり”

- ・安芸の小京都竹原の町並み
- ・夜の大久野島で静けさと星空観察
- ・倉敷美観地区見学後、ジーンズバスツアー
- ・鷲羽山で夕日と朝日を鑑賞
- ・屋島と高松市内めぐり

< 6 > 松山市～呉市～竹原市

“松山・呉・竹原ノスタルジックストーリー”

- ・坂の上の雲の世界回遊＋道後回遊
- ・大和ミュージアムと戦艦大和の世界（ガイド付）
- ・呉では海軍ゆかりの料理や屋台料理
- ・竹原の町並み保存地区を周遊

< 7 > 松山市～柳井市～岩国市

“南瀬戸内海ノスタルジックな旅”

- ・1日遍路体験と道後散策
- ・宮本常一記念館に立ち寄り、柳井の白壁の町並み散策
- ・吉川殿様コース、岩国寿司
- ・大正時代の着物レンタルで城下町散策

イ. 第7回地域研究会（合同会）

①開催概要

第7回地域研究会として、12地域の研究会メンバーの代表者（最大3名）が集まる合同会を下記の通り開催した。

◆目的

- ①調査で実施した各種調査結果についての報告
- ②地域研究会で検討したスローツーリズムの発表と評価
- ③スローツーリズムの情報交換と検討、今後の取り組みの検討

◆日時：平成18年3月17日（金）13:00～20:00（交流会含む）

◆場所：広島ガーデンパレス 2階 錦

◆参加者：60名程度

地域研究会 36名（3名×12地域）
ファシリテーター8名（中国総研）
旅行代理店・旅行雑誌編集者 4名
事務局及びオブザーバー 数名（国省庁、各県、中国総研）

◆タイムテーブル

	時間	内容
	13:00～13:05	開会・合同会の内容説明
地域からのスローツーリズムづくり	13:05～13:20	各種調査結果報告（15分） ・地域評価の結果 ・モニターツアーの実施結果 ・ウェブアンケート結果
	13:20～15:00	地域スローツーリズムの主張（1地域5～10分×12地域） ・各地域研究会で検討した内容について、各地域からの主張を行う。 （スクリーンに紹介文又は画像を映し出すことが可能）（各地域研究会メンバー）
	15:00～15:40	様々な立場からみたスローツーリズム（1人10分×4名） ・旅行代理店、旅行雑誌編集者、スローなまちづくり関係者の方々から、それぞれが考えるスローツーリズムや地域への期待などを話す。 ①日本旅行（旅行代理店） ②近畿日本ツーリスト（旅行代理店） ③四国G A J A編集：エスピーシー（旅行雑誌編集者） ④スロータウン連盟事務局（スローなまちづくり関係者）

	15:40～16:00	(休憩)
今後の支援	16:00～16:20	情報発信や今後の地域に対する支援の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信 (パンフレット紹介, ウェブページデモ) ・各省庁・各県から補助事業の紹介 ・中国経済連合会から次年度事業の紹介
瀬戸内海のスローツーリズムづくり	16:20～16:40	スローツーリズムの手引き(案)の紹介
	16:40～18:00	瀬戸内海スローツーリズムに向けた分科会 (4グループ) <ul style="list-style-type: none"> ・10人程度ずつに分かれて、瀬戸内海スローツーリズムに必要なことを話し合う。また、次年度以降に取り組むべき必要性・緊急性の高いこと話し合う。 <p>①地域で取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・着地型エージェント組織や研究会の継続など、今後地域でどのように継続的に取り組んでいけばよいか。地域研究会の継続手法について。 ※旅行代理店参加 <p>②地域から発信する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・地域の資源をどのように発信していくべきか。地域からの情報発信手法について。 ※旅行雑誌編集者参加 <p>③お互いを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・瀬戸内海スローツーリズムとして、どのように情報共有、情報交換、交流をしていくか。今後全体として進めていく仕組みづくりについて ※スロータウン連盟, 中国経済連合会参加 <p>④将来目標像を語る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・各地域からの主張や手引きなどを基礎資料として、最終的に瀬戸内海スローツーリズムはどうあるべきか。瀬戸内海スローツーリズムの将来像・夢を語る。
	18:00～18:30	瀬戸内海スローツーリズム検討内容の発表 <ul style="list-style-type: none"> ・各分科会で検討した瀬戸内海スローツーリズムの原則と次年度に取り組むべきことを発表し、とりまとめる。
	(18:30～20:00)	(交流会) <p>○参加者からの感想・次年度以降への抱負</p>

②分科会

4つのグループに分かれて瀬戸内海スローツーリズムに必要なこと、次年度以降に取り組むべき必要性・緊急性の高いこと話し合う分科会を行った。分科会での検討内容（抜粋）は以下の通りである。

< 1 >地域で取り組む

- ・地域研究会はこれからどうあるべきか。継続はしていきたいが、地域によって状況が異なる。やりたい所が続けていけるような応援があると良い。
- ・選択できるメニューや自由な時間の提供がこれからの旅行に必要な。ニーズを探るモニターツアーでは、失敗できる実験的なモニターツアーがあっても良い。
- ・着地型エージェントは、地域の資源をメニュー化する、売るべき資源を作り上げることが重要。作り上げると、選択、組み合わせが可能になる。
- ・商品として見た場合は、個々のメニューがビジネスとして成立し、責任を持って実施されることが大事だろう。ビジネスモデルを作るために働きかけることもエージェントの役割になってくる。その意味でいえば、着地型エージェントは地域のマネジメント組織になるだろう。
- ・スローツーリズムは大手エージェントを否定するような向きもあるが、やはり大手エージェントを利用する、うまく付き合っていくことも必要である。

< 2 >地域から発信する

- ・特に首都圏に対して瀬戸内海の認知度が低い。
- ・それぞれの地域にはいろんなメニューがあるが、瀬戸内海として見ると、幕の内型でわかりにくい。
- ・印象に残るためには「集中」するべきである。絞り込む必要がある。
- ・情報発信には3つの段階がある。1つは瀬戸内海、2つは地域から外への発信、3つ目は各地域の現場。
- ・瀬戸内海としての売り方としては、瀬戸内海をどう売るかを明確に絞った方が良い。
- ・各地域からの発信では、現在いろんな情報をいろんな組織・団体が出しており、散在している。まずは地域の情報（隣の町の情報も）をまとめることが必要。
- ・各地域に入った時には、細かい情報が必要になってくる。地道に細かい情報を出していくことが必要。
- ・情報を絞り込むと言うことは、地域の魅力の質の向上も同時に必要。

< 3 >お互いを知る

- ・今回の合同会で交流の成果はとてもあった。来年度も続けたいという意向は確認できた。
- ・交流会はお互いを訪問して、移動合同会として評価し合うという形が良い。

- ・テーマを決めて、情報交換していきたい。例えば瀬戸内食の六法や産業観光など。
- ・エージェントと協力した商品開発や相互の情報交換、悩みの共有は必要。
- ・今後のネットワークづくりとしては、行政があまり入り込まない、自由な民間の立場で情報共有する「瀬戸内勝手連」として情報共有、情報伝達、地域エージェントの集合体などの機能を持つと良いのではないか。
- ・課題は、熱く燃える人の集団になるための人の育成、意識啓発を同時にやっていくこと。

< 4 > 将来目標像を語る

- ・将来目標を語るのは、スローツーリズム自体が広い概念なので難しい。
- ・地域の中の暮らし方や文化、衰退した産業、しなくなった祭り、料理などを見直して、どうやってボトムアップできるかが非常に重要。
- ・継続させていくためにはお金も必要だが、お金が無くてもボランティアな仕組みがあれば良い。
- ・仕組みは2階建てであり、1階はボランティアな動き、2階は経済活動をするような地域の仕組みがたくさんあることが大事ではないか。
- ・訪れた人が共感できる、実感できるような、地域の人が地域の価値を見つけるようなプロセスがありそうだ。
- ・目標に近い言葉を挙げると、「地域の資源の継続的な掘り起こし：地域を見つめる」、「地域の人が新しい生き方を学んで実践する」、「小さなビジネスが生まれる」、「次世代につながる経済的基盤がある」、そんなスローツーリズムでありたい。
- ・多様な地域が頑張って「協創」することが重要。

2. 地域におけるスローツーリズムとその評価

(1) 旅行専門家からの評価

ア. 専門家によるスローツーリズム的要素（景観・環境・新しい集客サービス）の評価

各地域のスローツーリズムコンテンツについては、旅行専門家から次のように評価された。

※カッコ内の数字は評価点の平均値（5:非常に満足, 4:満足, 3:普通, 2:少し物足りない, 1:不満足）

地域	スローツーリズム的要素 (景観・環境・新しい集客サービス)	・評価された点	・問題として指摘された点 *改善すべき点
岡山	さわら料理(3)	<ul style="list-style-type: none"> さわらフェアが開催され、それぞれの店はフェアの幟を設置。 身がやわらかく食べやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 旬の魚であり、年中食べられないのが残念。また、フルコースはあきてくる。 *2品程度と他の瀬戸内の小魚をセットするのが一般観光客には受けるのではないか。
	レンタサイクル (吉備路)(4)	<ul style="list-style-type: none"> 総社駅前の荒木レンタサイクル主導で、備中国分寺の高谷レンタサイクル、一宮駅前のウエドレンタサイクルのタイアップで営業している。 他地域に比し、システム化している。 	<ul style="list-style-type: none"> 若干古さが目立つ。
	吉備路自転車道からみた景観(5)	<ul style="list-style-type: none"> サイクルロードが分りやすく、サインも的確に設置されている。特に、国分寺付近の景観は素晴らしい。 	
	神社仏閣等の歴史的景観(3.5)	<ul style="list-style-type: none"> 建造物は立派である。 	<ul style="list-style-type: none"> 庭園に物足らなさを感じる。
倉敷	ジーンズ観光（ベテミスなど）(3.5)	<ul style="list-style-type: none"> オーダーメイドで、オリジナルのジーンズを仕立てるサービスをおこなっている。 ジーンズ資料館もある 	<ul style="list-style-type: none"> 縫製工程の見学が可能であるが、工場内は狭隘で多人数の対応は難しい。
	藍染め体験（らんぷ屋）(4)	<ul style="list-style-type: none"> 児島駅に近く（徒歩5分）で一人から体験可能。 	
	ジーンズバス(3)		<ul style="list-style-type: none"> 平日に運行していない。ふれあいバスが運行しているが福祉的な運行であり、観光には使い難い。
	鷲羽山からの眺望(4)	<ul style="list-style-type: none"> 島々の重なってつながる景観は、他にあまり例がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 欲をいえば、もう少し高い場所からの景観が望められたら最高。
	下津井のまちなみ(1.5)	<ul style="list-style-type: none"> 下津井港の風情はスローツーリズム企画に取り入れたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 町並みは、観光としての整備はあまりされていない。 *漁港の町なので、食を主体とした町づくりをやるべきである。
	瀬戸大橋周遊観光	<ul style="list-style-type: none"> 海から巨大橋をみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 下津井港沖の六口島（象岩）などを含めた遊覧がしたい。

	船からみたながめ (4)		*島々に立ち寄るなど変化が必要。
呉	観光ボランティア ガイドによる案内 (4.5)	<ul style="list-style-type: none"> 観光客に対するおもてなし、熱意には敬意を表したい。 旅行スタイルが個人型に移行しており、こうした現地での受入体制は今後、不可欠となる。 	*やや一方的な案内。観光客のニーズや体調を考慮したい。(買物、飲料など)
	ボンネットバスでの 観光案内(5)	<ul style="list-style-type: none"> ノスタルジックな演出が観光客に感動を与える。他の観光資源(たとえば、人力車、渡し船、音戸の舟歌、古い町並みなど)とあわせば、一層の効果がある。 	
	屋台での飲食 (2.5)	<ul style="list-style-type: none"> 料金はラーメンが400～500円で手ごろで納得がいく。 水道を設備した衛生的な屋台群である 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の明るさがほしい。女性などは危険を感じるのではないか。 常時、10店以上の出店がないと選択肢が少なく魅力に欠ける。 *来訪者には不安を感じる。はじめての人にも入りやすくなるよう工夫を望む。
	音戸の渡船(4)	<ul style="list-style-type: none"> 前後の乗り物または、演出により効果的な利用価値がある。 情緒があり、魅力が高い。 	*渡船場所がわかりにくいので車道に案内サインが必要である。
	灰ヶ峰からみた市 街地と瀬戸内海の 景観(4)	<ul style="list-style-type: none"> 所要時間が短ければ、誘客度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 山頂までの所要時間が30分以上かかるため就寝時が少々遅くなる。 函館、長崎、下関などに比し物足らなさを感じる。 *光の量的拡大に市民運動として展開することが必要である。 水際をくっきりさせるため、海岸線にライトライン(島嶼部含む)を引けば一層良くなる。
	瀬戸内海航路の高 速船の船上からみ た海と島の景観 (2.5)	<ul style="list-style-type: none"> 時間が許せばフェリーを勧めたい。景観は素晴らしい 	<ul style="list-style-type: none"> 高速船の構造上から景観は見難い。 本四架橋のある中瀬戸、東瀬戸の景観のようなダイナミックさに欠け、景観が単調である。
竹原	竹原の酒試飲めぐ り(4)	<ul style="list-style-type: none"> 試飲をしながら楽しく買物ができる。 買物機能としても好評である。 	<ul style="list-style-type: none"> ニッカウキスキーの創始者である竹鶴酒造が町並み保存地区にあることが知られていない。 全国的に有名な酒どころ東広島市と協力して、酒どころ竹原を売り出せば全国からの誘客が可能である。 * (お土産としては) 重量がかさむため宅配便の活用が必要である。
	竹細工体験(まちな み竹工房・竹の 駅)(3)	<ul style="list-style-type: none"> やや狭隘だが少人数なら可。 保存地区に竹原らしいみやげ物店が少ないので、買い物には適している。 	<ul style="list-style-type: none"> スペースが狭い。 *体験のための必要時間など事前に告知しなければ予定がたたない。
	たけはら観光ガイ ド会による町並み	<ul style="list-style-type: none"> よく教育訓練できている。 	*パンフレット「浪漫てくてく」にガイドの有無や予約先の表示が

	ガイド(4)		ない。
	文化施設周遊券を利用した町並み自由散策(5)	・低廉で利用しやすい。	
	アヲハタ「Jam 工房体験」(4.5)	・最寄り駅に近く利用しやすい。特に女性にピタリ。 ・自分で作ったジャムをそのままお土産に出来るので参加者の満足度は高い。工場見学も新鮮である。	・全国のシェア40%を誇るアヲハタが竹原にあるのは知られておらず、竹原市内観光と連動させれば、集客が見込まれる。 * 忠海駅から近いが案内サインがないため、ガイドがいないと経路がわかりづらい。
	黒滝山ハイキング(4)	・登山道はよく整備されている。案内板も適切。 ・午後がおすすめ。 ・手ごろな登山である。登山道の整備状況素晴らしく、トイレ、展望台も整備されている。頂上からの展望良好。	・マイカー客の誘導標識が不備。(駐車場までの誘導) 午前中は、瀬戸内海が逆光になり眺望にやや課題。
	レンタサイクルの乗車体験(-)		・竹原駅前にレンタサイクルがあるが、町並みを歩くことに意義がある。利用価値がやや少ない。
	J R 呉線の車窓からの風景(3.5)	・竹原～三原間が特に素晴らしい。瀬戸内マリビューからの景観は特筆すべきものである。 ・海が連続して見ることが出来る忠海から三原の景観は素晴らしい。地元の住民(年配者が多く乗降客が少ない)とも触れ合うことが出来、スロートーリズムに適している。	
岩国	観光ボランティアガイドによる案内(2.5)	・他地域のボランティアガイド協会との教育交流などでレベルアップを図っている。(一穂総務課長談)	・ガイド料無料で、退職層が多いため、観光客が見たいところ、リズムを察知することの欠けることが多いようである。 ・ガイドの年齢層の問題もあるので、休日には歴史クラブに所属する高校生などの起用を。 * ウィークデイにおいても交代で拠点に常駐できるシステムがほしい(岡山市では実施)。
	着物をレンタルして城下町散策(2)	・「大正ロマン」の展開がされている ・年間、春秋に200人程度の利用	・花見時以外は横山地区は寂しすぎ、岩国地区の横丁は城下町の風情に欠ける。 ・特別な興味をもつ人以外はやや腰が引けるのではないか。着物が古く若い女性には特典などを付与しなければ難しい。 ・宇野千代＝大正ロマンは、やがて通じなくなる。もっと平易なファッションで。 * 京都市の着物レンタルシステムを参考にし、観光客にメリット(施設入館料割引、着崩れ対応など)があるように。また、現在の

			きものも用意するべきである。
	岩国寿司づくり体験(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・予約さえすれば、安くカンタンに体験できる。 ・岩国ユースホステルの体験施設は、参加人数に応じて数種類の容器を用意している。参加人数は最低4～5人から。 ・スローツーリズムの展開では有効な体験になる。 	<ul style="list-style-type: none"> *少人数(2人)でも体験可能にすべきである。
	おはんの関連資源(宇野千代生家、幸せの言葉めぐり)(2.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・入館料は無料。関連商品を販売している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の若い人は宇野千代を知らない。島耕作バージョンがあつて良いのでは。 ・中心地からやや離れているためアクセス面で課題。 ・幕末の岩国藩の活躍ぶりを、島耕作の漫画家に依頼して作成するなどストーリーの多様性を。 *入館料を有料にしてもよい。無料であることが反って入りにくい。
	錦帯橋と錦川の風景(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・四季ごとにリピート訪問したい気持ちにさせられる。 ・春夏秋冬楽しめる景勝地。絵画、写真としても最高の絵になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川原の駐車場が目障りになるのが少々残念である。
	城山から見おろす錦帯橋・錦川と瀬戸内海の景観(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・錦川の蛇行や岩国市街が一望できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビナートと米軍基地が邪魔になる。 ・瀬戸内海はかすんで見難い。瀬戸内海の景観を売り物にするには難あり。
	吉香公園・紅葉谷公園など横山地区の四季の風景(3.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりした景観計画がされている。 ・整備状況は完璧。清掃も行き届き公園としては素晴らしい。特に、さくらの季節は是非訪れたい場所。 	
	城下町の町並み景観(岩国地区)(2)		<ul style="list-style-type: none"> ・レトロな意匠の店が、通り100メートルの間に5、6軒はあると情緒がうまれる。 ・やや雑然としている。古い建造物が連続的でなく、電柱、電線も地中化されていない。 ・100メートル理論(わずか100メートルのエリアに観光資源を集積させる)に沿った拠点を形成させる。たとえば、小樽運河や函館れんが倉庫などのように。
柳井	やない白壁花・香・遊(イベント)(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・早春の白壁の町を、ふんわり盛り上げている着物軍団のウーマンパワーには感じ入った。 ・町並み全体がはなやかなムードが漂っている。 	<ul style="list-style-type: none"> *残念なのは3月12日(日)の1日限りのイベントである。「花・香・遊月間」として3月の土日祝の開催を。 *せめて年2回開催を。
	大島瀬戸の渦潮と大島大橋の景観(瀬戸山公園から)		<ul style="list-style-type: none"> *瀬戸山公園への誘導サインがない。大島観光センターの案内にはやや不安。 ・道路状況が悪く、展望台も修理中であった

	の眺望) (3)		*瀬戸山公園のみならず周辺観光資源への案内誘導サインの設置。
	大島住吉・天神地区等の町並み(1)		・町名の表示すらなく、古い家屋が点在する町並みである。 ・観光資源化の推進には地元の理解が必要である。
徳島	ひょうたん島クルーズ(2)		*有料にしてもボートの改善ができないか。 *ガイドや運行時期など、楽しませる工夫。
	阿波おどり体験(4.5)	・ベテランの踊り手の指導で楽しく体験できる。 ・シーズンだけしか見られなかったのが、一年中、見ることが出来る。	
	眉山山頂からの景観(3.5)		*観光客のために、冬期も夜運行して欲しい。 *夜間運行で有名な函館市を参考に改善が望まれる。
	ひょうたん島クルーズの船上からみた景観(2.5)	・護岸は完全に整備されている。新緑の季節以降がよい。	・新緑の時期はよさそうだが、その他の時期の見所が欲しい。 *花や樹木を植えたり、要所で降りれるようにして、交通の手段にしても良いのでは。
	しんまちボードウォーク、新町川水際公園など河岸の景観(2.5)	・市民の憩いの場所。	・これといった特長がない。
鳴門	大谷焼体験(1.5)		*体験可能な個所は6箇所。アクセスの課題がある。鳴門駅、鳴門公園からの路線バスはほとんどない。タクシー、レンタカー利用。循環バスや乗合タクシーを検討すべきである。 ・粘土を、お好みの形にするだけの体験。全国どこでもできる体験。 *もっとここでしか出来ない体験ができれば。
	観潮船(3.5)	・間近で見ることが出来る観潮船も圧巻。	・渦の道に影響されやや魅力が乏しく感じる。 *渦の道との競合対策。セット券など割引システムを検討してはどうか。
	大鳴門橋と鳴門海峡の景色(4)	・橋と海峡の景観はとても美しい。万人受する風景であることは間違いない。	
	内の海の景観(3)	・穏やかな内海の景観は素晴らしい	
	うずしおロマンチック海道沿いの瀬戸内海の景観(3.5)	・ドライブコースには最適。この土地の風土が感じられ情緒ある景観は心を和ませてくれる。	・海岸線の景観は素晴らしいが資源性としては低い。 ・さびれた、廃墟施設があるのが気になる。

高松	レンタル自転車 (1.5)		<ul style="list-style-type: none"> *高松駅からの誘導案内サインがないし、観光客にとって分かりにくい場所。レンタサイクルマップがあるが、観光客を意識したマップ構成になっていない。 •専用のサイクリングロードがなく危険を感じる。
	栗林公園（掬月亭）での昼食(3)	<ul style="list-style-type: none"> •園内の数寄屋造りの建物内での食事は極めて情緒的である。 	<ul style="list-style-type: none"> •空調設備がなく、冬季、夏季は厳しい。 *弁当以外のホットな食事が提供できないか。 •昼食に3000円は高い。
	栗林公園のボランティアガイドの案内(2.5)	<ul style="list-style-type: none"> •親切丁寧でマナーも良い。 •園内の雰囲気に合わせて、和服などをまとったサービスが好ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> *予約方法やボランティアガイドの存在についてパンフレットなどに表示。
	サンポートタワーから見る瀬戸内海と高松市街地(3.5)	<ul style="list-style-type: none"> •昼間の瀬戸内の景観は素晴らしい 	<ul style="list-style-type: none"> •市街地の夜景はものたりない。
	ことでんから見る風景(1.5)		<ul style="list-style-type: none"> •田舎に良くある風景で特に良かったと思えるようなところはなかった。
小豆島	ガイドの案内（笠ヶ滝）(3.5)	<ul style="list-style-type: none"> •ガイドさんも親切丁寧で、島のことを詳しい聞くことが、できる。 •エコツーリズムも心得ている。手づくり弁当もタコ飯おにぎりに満足。 	<ul style="list-style-type: none"> •弁当は食品衛生法上、合法的に行われているか、疑問を覚えた。 *山登りはかなり危険を感じる場所がある。怪我や事故に注意が必要である。保険の付保が望まれる。
	ごま油工場見学(-)		<ul style="list-style-type: none"> *土日休み。観光客を受入れるのであれば、土日は開けて欲しい。
	レンタル自転車（池田）(1)		<ul style="list-style-type: none"> •レンタサイクルの標識はまったくない。カウンターに表示もなく、料金表などの印刷物もないとのこと。自転車も倉庫に保管の状態には、啞然とした。
	オリーブ工場見学(3)	<ul style="list-style-type: none"> •搾油などの工程はオリーブ公園でも見学できる。 	<ul style="list-style-type: none"> *東洋オリーブ工場土日休み。観光客を受入れるのであれば、土日は開けて欲しい。
	素麺箸分け体験(2.5)	<ul style="list-style-type: none"> •昼間の体験の準備に3時からしこみの準備するにはびっくりした。所要時間5分ぐらいで、麺伸ばしを体験できる。体験料は無料。 •簡単な作業でだれでも容易に体験可能。 	
	笠ヶ滝からの景観(4)	<ul style="list-style-type: none"> •岡山側、香川側の両方の瀬戸内を見渡せる絶景でした。 	
	夕日(3.5)	<ul style="list-style-type: none"> •夏場、夕焼けクルーズが出るほど美しい。 	
	船からの瀬戸内海	<ul style="list-style-type: none"> •島々を背景にかもめなどが飛び交う景観は素晴らしい。 	

	(3.5)		
松山	ボランティアガイドによる案内 (3.5)	<ul style="list-style-type: none"> 古い町並みや城郭の専門家によるガイドは高く評価できる 普通の住民が気軽に声をかけてきて説明するなど、住民のホスピタリティは高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回のガイドは東雲短期大学の専門家によるガイドであったが、年間を通して対応が困難とおもわれる。 *道後温泉周辺と松山城の拠点ガイドのみなので、市内周遊のガイドを設置できれば良い。また、午前中あるいは午後からなどガイド時間が限定されているのも改善すべき点だと思う。
	温泉街の自由散策 (朝日楼、ネオン街) (3.5)	<ul style="list-style-type: none"> 通常は目にふれない裏通りに新発見があった。温泉の情緒が増幅されるだろう。 	
	道後散策マップ (3)	<ul style="list-style-type: none"> 苦心のあとが理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> *もっと地元の人しか知らない裏情報を盛り込むと、面白いものになる。 *携帯にはやや気になるサイズ。A4サイズにならないか。 *スタンプラリーのような企画を考えると良い。
新居浜	ガイドによる案内 (4.5)	<ul style="list-style-type: none"> 非常に親切丁寧に説明、案内してくれましたが、他にもガイドさんがいるようですが、ここまでのレベルで話してくれると良い マイントピア別子にはボランティアガイドが5~6名いる。(常駐は土日祝) 	<ul style="list-style-type: none"> *ガイドマップなどがあれば良いと思う *新居浜市職員以外のボランティアガイドなどの養成を期待したい。
	登山道の環境 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 誘導・説明サインも有り、道も当時そのままの雰囲気は損なわず最低限の整備が行き届いている。また、登山客が残すゴミなど一切なくよく管理できている。 日頃からボランティア(住友鋳山OB)のかたがたによる補修・整備がされている 	
	別子銅山遺跡周辺の風景 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 紅葉の時期はとてもきれいと聞きました。道中滝があったり、谷があったり、対岸に遺跡があったりと山頂までの道中、いろんな風景を堪能しながら楽しく登ることが出来る。 	
	山から見た瀬戸内海の景観 (3.5)	<ul style="list-style-type: none"> 2時間かけて登る価値のある景観でした。観光客にも銅山の歴史的背景を踏まえた目で見てもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ただし、瀬戸内海は季節により霞んでほとんど見えない。

イ. スロートーリズム型観光地としての評価

各地域のスロートーリズム型観光地としての魅力については、旅行専門家から次のように評価された。

※カッコ内の数字は評価点の平均値（5:非常に満足, 4:満足, 3:普通, 2:少し物足りない, 1:不満足）

地域	地域	・評価された点	・問題として指摘された点 *改善すべき点
スロートーリズム型観光地としての魅力	岡山(3)	・さわら料理、吉備路サイクリングに加えて、多彩なカルチャー企画、体験的な企画の展開を期待したい。	
	倉敷児島(3)	・ジーンズの発祥の地でも有り、体験と食を組み合わせた企画ができれば知名度は増します。 ・繊維の町に加え、下津井漁港と海の幸を取り入れた企画ができれば一層魅力度は増す。	
	呉(3)	・蒲刈などの島々の観光資源を活かせばスロートーリズムを体感できる ・音戸の瀬戸、町並み散策、温度の舟歌、音戸の渡し、ボンネットバスなどを強調したい。	・旧呉市内の観光だけでは滞在型の観光の魅力が弱い。
	竹原(3)	・竹細工やジャムづくり体験、酒造巡りは集客サービスとして魅力がある。町並み保存地区を集客の核として、市域に点在する資源を活かした新しい体験プログラムを開発すれば魅力が高まる。 ・町並み保存地区をゆっくり散策し、ジャムづくり体験を楽しむという企画はスロートーリズムのテーマに沿っている。	・黒滝山登山は内容を詳しく説明しなければ参加は望めない。
	岩国(2.5)		・上流の、錦川清流鉄道、錦町のトロッコ列車、温泉、美川町の地底王国などをつなぐとスロートーリズムになるかも知れない。
	柳井(3)	・「花・香・遊」イベントの内容はスロートーリズムのテーマに沿っている。この成功を機に年間を通じて市民、関係者の活動を展開するよう期待したい。 ・少なくとも、今回の花・香・遊に参加された市民は、スロートーリズムの何たるかを、肌で知っている、と感じた。	
	徳島(3)	・阿波おどり会館でのおどり体	・全国レベルの阿波おどりはある

		<p>験、阿波おどりの歴史が学べる。藍住町の藍の館での藍染め体験など充実している。</p>	<p>が、その他の観光資源は、非常に厳しい。</p>
	鳴門(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・鳴門周辺はホテルも多いし、温泉もある。大塚国際美術館、渦潮、鯛料理と良い素材がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺観光地との連携が望ましい。 ・地域産品を活用した新たな郷土料理の開発と体験可能なシステムの創出を期待。大谷焼のPRとアクセス改善が望まれる。
	高松(2)		<ul style="list-style-type: none"> ・スロートーリズムの定義から言えばやや物足りない。塩江温泉を保養施設としての開発が望まれる。 ・「讃岐うどんづくり体験」、「瀬戸の小魚料理づくり教室」や塩江温泉の活用を望む。
	小豆島(3.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の宝庫、美しい風景を見ながらゆっくりと時を忘れて過ごせる。のんびりできるし、体験施設もある。スロートーリズムの素材としては、ほぼそろっているのでは。 	<p>*観光客参加型体験のより一層の取り組み期待。たとえば、海、漁など水辺を活用。</p>
	松山(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・路面電車や循環バスなど市内の公共交通機関が充実しているほか、温泉地に宿泊し、ゆっくりと希望の目的地を散策するスロートーリズムに適している。ボランティアガイドや体験プログラムを充実させれば、魅力はさらに高まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松山市のイメージは俳人、正岡子規、文豪、夏目漱石など文学の町である。その特徴を生かした企画がなく残念である。
	新居浜(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・初日に、マイントピア別子や別子銅山記念館などで学習、体験して、2日目に遺跡巡りの銅山越えの登山を行い歴史ロマンと自然にふれあい、ヘルシーランド別子で温泉に入って帰ってもらうなど、スロートーリズムのテーマに最適。 ・産業遺産を学ぶ、登山を楽しむということではスロートーリズムのテーマに沿っている。 	

ウ. 専門家によるスローツーリズム的要素の評価（まとめ）

専門家により評価された点、改良すべき点は下記のようなものである。

○評価された点

- ・展望地からの景観，船上からの景観，渡船の魅力，海の見えるドライブコースなど，瀬戸内海沿岸の景観
- ・吉備路や港町の風情ある景観
- ・ボランティアガイドの熱意，ホスピタリティ，イベントでの市民パワー
- ・現地ガイドの専門性の高い説明
- ・ジャムづくり体験，阿波踊り体験，オーダーメイドジーンズ，藍染め体験などの体験メニュー
- ・ボンネットバスの魅力など希少性の高いもの

○改良すべき点

- ・観光地や公共交通機関へのわかりやすいサイン・案内
- ・訪れて欲しい場所（観光地）までのアクセスの確保
- ・ボランティアガイドの質（専門性，個別ニーズへの対応，有料によるプロ意識）と対応する体制（常時対応，少人数対応，連絡先明示）
- ・郷土料理の品数や提供の方法
- ・体験メニューの所要時間や体験内容などの明示・事前周知，ここでしかできない体験のPR，土日対応
- ・イベントは特定日だけではなく，開催日の増加や一定期間とすること
- ・ガイドマップは地元の人しか知らない情報などを掲載するなど観光客を意識したものとし，携帯サイズとすること
- ・事故等に備えて保険付きとすること

○まとめ

- ①瀬戸内海の景観については高く評価されている。展望地までのアクセスの整備や公共交通情報の提供が十分になされていない点が課題として挙げられる。また，船上からの景観なども評価されており，フェリーなど展望デッキのある船がスローという面からも注目される。
- ②ボランティアガイドの熱意や専門性の高いガイドは高く評価されている。今後は，一方的な解説ではなくお客様のニーズに合った解説やふれあいを大切にしたいガイドなどガイドの質，常時対応や少人数対応などガイドの運営体制，連絡先や申し込み方法など情報提供などについて検討する必要がある。
- ③ジャムづくり体験，阿波踊り体験，オーダーメイドジーンズ，山岳霊場エコツアーなどの体験メニューの評価が高い。今後の観光は見るだけではなく体験のニーズがさらに高まると予想され，体験メニューの開発，受け入れ体制の構築などが重要になってくる。また，ジャムづくり体験の指導者がやさしく丁寧なことや，エコツアーのインストラクターの丁寧な解説なども重要な要素である。

- ④地域独自のイベントについても評価が高くなっている。人気のあるイベントについては、特定日だけでなく、1週間、年2回といった回数を増やすことも検討する必要がある。
- ⑤イベントや体験メニュー、景観などについて、希少価値の高いもの、そこにしかないものが評価されている。地域の資源を再評価し、独自性のあるもの、希少価値のあるものをクローズアップして売り出すことを検討する必要がある。

エ. 専門家による観光的要素の評価

参考として、12地域の観光的要素についての専門家の評価は以下の通りである。

a. 観光的要素の評価

※カッコ内の数字は評価点の平均値（5:全国トップレベルの誘客力がある、4:全国的な誘客力がある、

3:地方スケールの誘客力がある、2:県民及び周辺地域住民の観光利用、1:主として地域住民の観光利用）

地域	観光的要素 (観光資源)	評価された点	改善すべき点
岡山	吉備津彦神社(3)	・日祭日はボランティアガイドが常駐している。	
	吉備津神社(4.5)	・室町時代初期の建築物であり本殿、拝殿は国宝。	
	備中高松城跡(1.5)	・羽柴秀吉の水攻めで知られている城跡である。 ・自動案内装置がある	・建造物は残っていない。基礎の石や庭石が残っており、一般的な公園となっている。 ・城壁など復元ができれば観光資源になる。
	最上稲荷(3)	・岡山県および周辺地域では人気の稲荷神社。	・吉備路サイクルロードからやや外れているためカットされやすい
	造山古墳(2)	・サイクルロードに沿っているため立ち寄る観光資源である	・駐車場（駐輪場）からの階段や上り坂は高齢者や障害者にとっては厳しい。また、古墳内が開放されていないのが残念。 ・詳しい説明板がほしい。
	岡山城・岡山後楽園(4)	・三大名園の一つでも有り、四季を通じて見学できる。	
倉敷 (児島)	野崎家旧宅(3)	・建造物の素晴らしさもさることながら、枯れ山水の庭園が見もの。	・テーブルで案内しているが、聞こえ難いので、ガイドを付けて案内できないか
	下津井回船問屋(3.5)	・施設の内容は良い。バリアフリーにしてあり車椅子でも見学できる。 ・入館料無料がうれしい。	
	源平合戦跡(1)		・一般的に知られていないマイナーな観光資源。 ・案内サインもほとんどなく観光資源としては改善を要す。
	鷲羽山(4)	・眺望は瀬戸内海でも1、2を競う場所といえる。	
呉	大和ミュージアム(3.5)	・戦前・戦中世代は懐かしさ、戦後世代は造船技術の素晴らしさを感じる施設。 ・他にない独自性という点で意義深い施設。	・再来館が期待できるか課題である。 ・体験コーナーや企画展を充実させれば、さらに集客が見込める。 ・館内に休憩機能が不足している。椅子、テーブルなどの設置が必要。
	アレイからすこじま（海上自衛隊の潜水艦、護衛艦）	・潜水艦が間近に見られるスポットとして、全国に発信できる。	・レンガ敷きの遊歩道があるだけ ・道路をはさみレンガ倉庫を活用したレストラン、土産物の店などがほしい。 ・駐車場がなくコンビニに車をとめ

	(3.5)		<ul style="list-style-type: none"> て車道を横断する人が多く観光スポットとしては危険である。 平日のボンネットバスによる周遊や駐車スペースなど周辺を整備する必要がある。
	入船山記念館(3)	<ul style="list-style-type: none"> 格調高い建築物 当時の対外政策を垣間見ることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> 旧長官官舎、敷地内の資料館ともに展示が充実しているが、資料館が老朽化している。
	歴史の見える丘(3)	<ul style="list-style-type: none"> 旧海軍工廠跡を一望できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単体では目的地になりえない。 「アレイからすこじま」とともに一体化し、るるぶ(観る・食べる・遊ぶ)開発をするべきである。
竹原	町並み保存地区(4)	<ul style="list-style-type: none"> よく整備されている。案内板も統一したものが適切に表示されている。飲食機能、買物機能もある。 古い町並みだけでなく、お寺なども保存地区にあり、他の中国地区の保存地区にない趣がある。 インフォメーション機能、ボランティアガイドなども充実している。 	<ul style="list-style-type: none"> P R不足により知名度が低いのが残念である。食事場所が限られており、団体が詰め掛けると、店側もパニックになっていた。 全体的に飲食場所が少ないので、空家対策も兼ねて飲食店の出店を誘致するなどの方策が必要である。 住民の乗用車が町並みに多数駐車または運行されている。せつかくの風情が壊れる。工夫が望まれる。
岩国	錦帯橋(4)	<ul style="list-style-type: none"> 平成16年、橋の建て替えプロセスそのものをイベント化し、前年増50万人の305万人が橋を渡った。 わが国には他に例のない素晴らしい名橋である。岩国市のシンボルである。錦川に浮かぶ鶴飼舟、遊覧船は情緒的。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も橋を中心にイベントを組むべきである。
	岩国城(2.5)	<ul style="list-style-type: none"> 最上階からの眺望は素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 錦帯城のサシミのツマである。 岩国城内の展示物は一般的 刀剣・武具の展示ばかりで面白くない。広島城のように、江戸時代の岩国城下の生活文化が分かる展示にして欲しい。
	吉川氏関連資源(吉香公園、吉川家墓所、吉香神社、吉川史料館、徴古館等)(2)	<ul style="list-style-type: none"> 整備が行き届いた公園である。 吉川氏関連施設中心であるが、徴古館は季節ごとに展示物が変わり、リピート性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 錦帯城のサシミのツマである。 吉川史料館は吉川家の史料、徴古館は岩国全体の文芸のミュージアムである。とすれば、徴古館というネーミングは古臭すぎる。ロマン建築らしいネーミングを。
	岩国地区の城下町の町並みとお店(2.5)	<ul style="list-style-type: none"> 桜工房、笠井金物店など、新しい店もポツポツ生れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体として魅力の連続性に乏しい。 町並みとしては、一地方都市にある光景である。商店は観光客対象というより市民の利用が主。 城下町の情緒が感じられない。
柳井	国森家(2.5)	<ul style="list-style-type: none"> お雛さまの前で、ご婦人達が茶会をやっていた。 調度品など往時のまま保存されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回の花香遊だけでは観光誘客力にはならない。 両家の全盛期の生活のありようを実感させる動態演出展示がない

			と、単なる奥行き深い商家である。
	むろやの園(2.5)	・広大な敷地(800坪)に建てられた豪華な屋敷内に往時の生活用具が残っている。	・¥450の入館料だけの値打ちは無い。 ・家屋に建造構造などを説明するシステムの設置。
	やない西蔵(3)	・「金魚ちょうちん」づくり、「柳井縞」の機織や染色の体験ができる施設である。スローターリズムにはぴったりの施設。	
	甘露醤油資料館(2.5)	・熟成用の大きな樽を見ることができる。また、お土産に甘露醤油の販売している。 ・大豆タンパクが沸沸とする醤油桶のにおいには、日本人の胃袋遺伝子に訴えるものがある。	・柳井漁協やJAとタイアップして、漬物教室、味噌料理体験・試食をやれば楽しい。 ・採れたてのキュウリを味噌で齧る、瀬戸内の小魚を味噌にする“瀬戸内おぼんさいレストラン”の週末開催を。 ・醤油づくりの工程や熟成期間、材料の調達などの案内があると一層意義がある。
	やまぐちフラワーランド(-)		
	清狂草堂・月性展示館(僧月性)(1)	・「ようお参りくださいました。」とい周辺住民のホスピタリティには感動した。 ・展示館の整備状況はよい	・NHKの大河ドラマでも紹介されない限り観光資源にはならない。 ・場所のサインが適切でない。 ・知名度を上げる努力と周辺道路に誘導サイン化を図る。循環バスの運行。
徳島	阿波おどり会館(3.5)	・阿波踊りを、見て、学んで、体験できる素晴らしい施設。 ・徳島観光の要所といえる場所。	
	眉山(3)	・山上での眺望は素晴らしい。	・ロープウェイの運行時間が課題である。特別な時期を除いて夜景鑑賞はできない。
	瑞巖寺(1.5)	・庭園は見事	・新緑、紅葉の時期以外は殺風景。 ・案内板、アクセスの整備。
	徳島城博物館・徳島中央公園(2.5)	・立派な施設。歴史に興味のある人は興味深い。公園は住民の憩いの場的場所。	・ここだけでは観光資源として弱いので他の施設との連動が望ましい ・隣接する庭園とセット料金化。
鳴門	霊山寺(一番札所)(3.5)	・八十八ヶ寺の一番札所としての責務を果たしている。特に、住職の熱意に感服した。 ・参拝者にお参りのあり方など十分に説明がされている。現在、約30万人の参拝者であるが団塊世代の退職とともに増加が期待できる。	・周辺資源(ドイツ館・歓喜の郷など)との連携を望む。
	バルトの楽園ロケセット:BANDOロケ村～歓喜の郷～	・6月の映画封切以降がポイント。	・施設への誘導案内板がない。飲食設備とともに早急に設置すべきである。

	(2.5)		
	鳴門のうず潮（うずの道）(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・地上 450mの橋の上から床のガラス越しに見下ろす渦潮は迫力。とても興奮しました。 ・外気にも触れることが出来、風が強い時など、それがまた迫力を増す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音声によるインフォメーションに加え、ボランティアガイドなど人による案内がほしい。
	大塚国際美術館(3.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・とても立派な施設。世界の名画（陶版）1000点以上ある。時間をかけてじっくり鑑賞したい。ガイドもレベルが高く充実している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入館料がやや割高感。(3150円) ・入館料の改善。他の美術館なみが望ましい。
高松	サンポートタワー(3.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・高松市街地、瀬戸内海が一望できる景観。 ・高松港から入出港する船舶の光景は、より一層見ごたえがある。 	
	香川県歴史博物館(2.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的に素晴らしい施設である。歴史的資料の展示のみならず、体験学習室を備える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上に超有名な人物がいるわけではないので、インパクトがない。 ・周辺施設と料金など共有チケット発行など連動できれば、おもしろい。
	玉藻公園(1.5)		<ul style="list-style-type: none"> ・天守閣があるわけもなくただの公園という感じである。地元の人たちの憩いの場的存在であるが、地元民も少ない。 ・入園料(200円)は無料が望ましい。
	栗林公園(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・四国を代表する名園である。園内でお茶や食事が可能で、癒しの効果がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・池に野鳥(おしどりなど)がほしい。
	屋島(1.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海を見下ろす景観は素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山上は荒廃している。また、ケーブルカーの廃止で観光資源としての魅力減は大きな課題である。 ・展望施設(タワーなど)を整備するなど名所としての再興を期待。
	四国村(2.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・屋島の麓にあり懐かしい故郷の原風景に会える。 ・きれいにしているし、居心地の良い空間である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋島と一体感がないのが課題。
	小豆島	醬の郷(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・何百年前の樽を使い醗酵している醤油は興味深く歴史・伝統を感じさせる。
	小豆島八十八カ所霊場(2.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・遍路路はよく整備されている。 ・意外にもたくさんの団体が訪れているのには、驚き。 ・笠ヶ滝寺のように険しい霊場があることを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・険しい山寺であり怪我や事故に注意を要す。
	小豆島オリーブ公園とオリーブ園	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉やホールまであってとても立派な施設。体験もメニューたくさんあり、充実している。 	

	(3.5)		
	二十四の瞳映画村と岬の分教場(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・中高年層には幼年時代の懐かしさがよみがえる施設である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年輩の人には、懐かしさがよみがえる施設のようなのだが、30代の私では、実感が湧かない。
松山	松山城(3.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・櫓など創建(1602年)当時のまま残っている。 ・現存する城のなかで往時の城郭が残る数少ない資源である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロープウェイの降口から天守閣までの路が整備されていないので、歩きにくい。企画展など定期的な催しの開催が必要である。 ・ボランティアガイドをさらに充実させれば、集客力が高まる。
	子規堂(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・建物が小さいので展示物が少ないが子規の書斎が再現されていて、ファンには興味深い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内サインが全くなく場所がわかりにくい。入館料を支払う窓口がわかりにくい。 ・土足のまま上がれるのは便利だが抵抗がある。
	明教館(1)		<ul style="list-style-type: none"> ・松山東高校の敷地内にあり、場所が非常にわかりにくい。由緒ある建物だが外観しか見れなかった。常駐者がいないため解説が聞けないのも残念である。
	ロシア人墓地(3)		<ul style="list-style-type: none"> ・電停の木屋駅からの経路がわかりにくく遠い。詳しい解説があれば良いが、お墓だけでは歴史がわからない。
	木村家など三津地区の観光(1)		<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、開発を模索している状況にあり、全国の観光客に紹介するのは時期尚早である。案内板の設置や常時観光案内が可能になることを期待。 ・案内誘導サインの設置および常時観光、入館が可能にすべきである。
	道後温泉(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国有数の温泉である。宿泊施設も充実して、サービスの一定の水準である。 ・旅館が密集しており、温泉街の雰囲気非常好い。道後温泉駅からの経路も情緒がある。知名度が高い上、期待を下回らないので満足度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹など周辺が緑化されれば、なお、温泉情緒がでてくる。
新居浜	別子銅山遺跡(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・登山道中、いたるところに当時の生活を偲ばせる石積みやブロック壁があり、興味をそそる。要所には当時取った写真付の説明サインがありガイド無しでも充分理解できる。住友グループの聖地と言わしめた銅山跡、テーマ性も有り近代ロマンを感じる事が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シーズン中の登り口の駐車場スペースが気になる ・登山の専門ガイドやボランティアガイドはいない。
	マイントピア別子(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光坑道には往時(江戸時代)の過酷な採掘シーンが人形模型を使って再現されている。スピーカーシステムによ 	

		り詳しく解説がされている。体験プログラムは「砂金体験」や「銅皿製作体験」コーナーがある。	
	ヘルシーランド別子(2)	・どこにでもある温泉ランドではあるが、別子銅山遺跡に行き山歩きをして汗をかいた後に、温泉に入って帰るにはとてもんびり出来、最適の施設。また、食事やお土産をかうコーナーも有る。	

b. 観光地としての魅力度の評価

※カッコ内の数字は評価点の平均値（5:全国トップレベルの誘客力がある, 4:全国的な誘客力がある,

3:地方スケールの誘客力がある, 2:県民及び周辺地域住民の観光利用, 1:主として地域住民の観光利用)

評価項目	地域	評価された点	改善すべき点
アクセス・交通条件	岡山(4)	・岡山への入って来る飛行機・JRは良い。市内は電車が便利(一回100円)	
	倉敷児島(3)	・児島駅および倉敷駅ともに新幹線からの接続便は多い。	・児島市内は観光地に行くのにアクセスが悪い ・循環バスが2系列あるが、地域住民の足の性格が強い。
	呉(3)	・航空機、新幹線ともに便数が多く便利である。	・広島空港からのリムジンバスの便が少ない。(1日6便) ・三原からのJR利用は非常に不便である。
	竹原(3)		・広島空港からのリムジンバスがない。また、三原駅に新幹線ひかり・のぞみが停車しない。 ・三原駅からのアクセスが悪い。
	岩国(3)	・新岩国⇄錦帯橋⇄岩国を結ぶ循環バスもできたので、近県からは行きやすい。	・航空機、新幹線(ひかり・のぞみ)は広島経由となる。
	柳井(2.5)	・海の道は発達している。	・航空機、新幹線ともに数回にわたって乗り継ぎとなる。
	徳島(2.5)	・関西方面からのアクセスは極めて豊富。	・市内の交通手段が便利が悪い。マイカーやレンタカーが必要。
	鳴門(2)		・交通弱者に対応できていない。 ・非常に交通便が悪い。
	高松(3)		・レンタサイクル・バス・JRで行くには不便なところもある。 ・「讃岐うどんづくり体験」の場所は郊外にありタクシーを使用せざるを得ない。
	小豆島(2.5)	・新岡山港、高松港からのフェリー、高速船は便数も多く便利。	・島内のバスの便はやや少ない。
	松山(4)	・首都圏および関西圏からのアクセスは航空機の発着が多く来訪しやすい。 ・空港、観光港ともに市内へのアクセスが良いのが魅力である。市内観光もバス、路面電車ともに整備され、周遊がしやすい。	・観光スポットへの案内サインがほとんどなく個人では、スポットにたどりつくまで時間がかかる。
	新居浜(3)		・新居浜駅からの交通手段がない(マイカーかレンタカー対応)。シーズン中は臨時バス対応をしてもらいたい。
観光資源	岡山(3)		・岡山市内でのみの観光目的では来訪しない。近隣観光地との連携が不可欠である。
	倉敷児島		・児島地区の単独展開よりも市内に美観地区がある。連携してのソロ

	(3)		ーツーリズム企画が望ましい。
	呉(3)	・特異な博物館として大和ミュージアムは全国からの誘客が見込める	・海軍関連の施設が多く、全施設を観るのには少々飽きる。音戸地区をはじめ島嶼部の企画が必要である。 ・全体的に旧海軍、自衛隊に関連する観光スポットに偏っている。
	竹原(4)	・中国地区の他の町並み保存地区と比べても魅力度が高い。保存地区内にお寺もあり安芸の小京都の名にふさわしい。 ・町並みは重要伝統的建造物群保存地区に指定されており全国に通用する観光資源である。	
	岩国(3.5)	・日本三橋のあとの二つを忘れるほど、錦帯橋の匠の技は素晴らしい。	・岩国建築組合の他の技も実演、展示してあるミュージアムがあれば。 ・合併を機に錦川上流域の豊富な自然資源を掘り起こすことが重要である。
	柳井(2.5)	・白壁の町、それを盛り上げている人が観光資源である。	・単独では観光誘致は難しい。他の観光地との連携が不可欠。
	徳島(3)	・阿波おどりは全国的レベルの観光資源	・阿波おどり以外は、これとって、目を引くものがない。
	鳴門(4)	・渦潮など、ここにしかないものがある。大塚国際美術館とからめて、ゆっくり散策したい。	
	高松(2.5)	・塩江温泉は新たな観光素材。保養、療養施設の充実を図りながら誘致活動をすべき。	
	小豆島(3.5)	・映画村、オリーブ公園など楽しく過ごせる施設がある。自然資源では、寒霞渓、銚子溪などの資源がある。	
	松山(4)	・松山市内の観光資源は知名度が高い	・他の観光資源のイメージがない。 ・量的にやや不足感がある。内子町や砥部町を含めたエリアでPR活動をすべきである。
	新居浜(3.5)	・歴史・自然・癒しと様々なテーマがあり、観光素材としてとても良い。 ・マイントピア別子のほか別子鉱山記念館、広瀬歴史記念館など銅山の関係施設がある。	
名物・特産品	岡山(3.5)		・季節的にはマスカット・白桃などがあるが、一定時期に限られる。
	倉敷児島(3.5)	・名物たこ料理は美味しい。	・タコ料理。高齢者には硬すぎるものがある。
	呉(2.5)	・「肉じゃが」がある ・地ビールのクレール、蒲刈の藻塩は有効。	・郷土料理がほしい。瀬戸の小魚を使用した料理開発はできないか。 ・工業技術的なイメージが高く、イ

			メージが湧かない。
	竹原(2.5)		・日本酒が特産といえるが、瀬戸内沿岸と立地を考えれば魚介類を使った郷土料理が必要。
	岩国(2)		・岩国寿司はお土産としては、不向きである。(特に遠隔地からの来訪者には) 岩国レンコンをはじめ業界類など地域産品活用の名物料理がほしい。
	柳井(2.5)	・大島を合併して、瀬戸内の観光地をイメージが一層増した。	・金魚提灯、醤油饅頭など、海辺の割に磯の香りがする名物が無い。 ・海の幸を名物・特産品にすることが望まれる。
	徳島(3)	・すだちが有名。ジュースから酒、焼酎とたくさん種類がある。	
	鳴門(3)	・鯛・鳴門金時・ワカメと食材には恵まれている。	
	高松(3)	・日本一うまいうどんがある。 ・ひょうげ豆、讃岐てんぷらなどがある。	
	小豆島(2.5)	・特産のオリーブの加工品、醤油、そうめんなど。	
	松山(3)		・タルト、五色素麺があるが物足りない。特産品として瀬戸内の魚介類を使用した名物料理、お土産品の開発を期待したい。
	新居浜(2)	・ふぐざく＝新居浜発祥の郷土料理でふぐの切身・皮、ねぎ、カワハギ肝の酢の物。えび天・じゃこ天・えびちくわなどの練り製品がある。	
祭り・イベント	岡山(2)		・観光客を誘致するイベントがない。
	倉敷児島(2.5)	・5月に「魚島フェスティバル」鮮魚の即売会がある。スローツーリズムに活用できないか。	・地域型のイベントが多く、全国区になるようなイベントを考えるべきである。(漁船を使つてのイベントなど)
	呉(2)		・呉みなど祭、夏祭りがあるが、地域住民の観光利用である。
	竹原(3)	・「たけはら憧憬の路」のイベントは古い町並みに明かりが映え素晴らしい。全国的な集客が期待できる。	・その他のイベントは県民および地域住民の利用である。
	岩国(3)	・鵜飼は夏の旅情を感じさせるもの。 ・春と秋は良い。	・鵜飼い期間中に全国から誘客可能な独自イベントを開催してはどうか。たとえば、全国鵜飼サミット(長良川、三次、日田などの鵜飼舟競演)の開催。 ・和船を活用して、涼を感じさせる盛夏のイベントを。
	柳井(3.5)	・「花・香・遊」イベントを柱にするべく開催期間をより長く(開催回数)し、柳井の	

		顔とすれば観光客誘致の効果がある。フラワーランドと相乗効果も期待できる。	
	徳島(5)	・阿波おどりは全国的なイベント。阿波おどり会館を利用して全国コンクールコンテストを定期的を開催するなど年間を通じて来客を呼ぶ展開をしたらよい。	
	鳴門(2.5)		・鳴門阿波おどり(8月9日～11日)納涼花火大会(8月12日)の連続イベントがあるが、PR不足。
	高松(1.5)		・高知・徳島のような大イベントはない。
	小豆島(1)	・オリーブフェア、オリーブマラソンなどオリーブにまつわるイベントなど多彩。どちらかというと地域住民利用が主。	
	松山(3)		・四国4県には、高知県、徳島県が全国的レベルの祭りがあり、愛媛県のイベントは目立たない。
	新居浜(3)	・新居浜太鼓祭り(10月16日～18日)地元では四国三大祭りのひとつ位置付けている。	
食事(料理・食材)	岡山(4)		・さわら料理以外の食材(瀬戸内の魚介類・野菜・果物など)が薄れている。
	倉敷児島(4)		・タコ料理の素材は大型のもののほか、飯タコなどやわらかい素材を使用すべき。(高齢者対応)
	呉(2)		・「肉じゃが」以外見当たらない。
	竹原(3)		・レストラン案内パンフ「たけはらうまいもんまっぷ」が作られているが竹原の独自性がない。たけのこ、魚介類など郷土料理の創作が望まれる。
	岩国(2)		・現状では“(瀬戸内)グルメの岩国”というキャッチフレーズは、全国的に打ち出せない。 ・錦川清流のイメージづくりと川魚を中心として新たな郷土料理の確立を期待したい。
	柳井(2)	・芋粥、チャンポンは渋い。 ・名物料理「茶粥」は町並みに似合う料理である	・若い人にはちょっと物足りないかも。 ・茶粥は瀬戸内沿岸の町の料理といえない。
	徳島(3)	・徳島ラーメンが有名。阿波尾鶏、四国三郎牛など素材のいい食材がある。	・郷土料理、名物料理の開発を期待。
	鳴門(3)	・鯛料理はとても美味しい。おそらく、その日に、地で上がった鯛を調理しているのだろ	

		う。とても新鮮でした。	
	高松(2.5)		・讃岐うどんに加え、瀬戸の魚介類を使用した名物料理の開発。
	小豆島(4)	・やはり瀬戸内で取れた魚料理が出た。やっぱり美味しい。	
	松山(3)		・松山を代表する名物料理がない。郷土料理として何を位置付けてPRするか検討の余地がある。たとえば、五色素麺と魚介類の合わせ料理など。
	新居浜(2.5)		・これと違って特長のあるものは見つけられない。瀬戸内の魚料理くらい。
宿泊施設	岡山(3.5)	・ホテル数は充実している。	・サービス改善。
	倉敷児島(4)	・鷺羽山周辺の絶景にありそれぞれ景観は素晴らしい。	・サービス面で全国的レベルの水準に達していない。いずれの施設も80点以下である。
	呉(3)		・サービス水準は平均的。 ・宿泊者数を伸ばすため、海岸線のライトアップを常時、行なうなどの施策が必要である。
	竹原(2)		・湯坂温泉郷に宿泊施設があるが、竹原との接点がない。連携して広報宣伝活動をすべきである。 ・旧家を利用した宿初施設の設置など古い町並みが残る竹原らしい取り組みが必要である。
	岩国(3.5)	・岩国国際ホテルと開花亭が全国レベルの宿泊施設。	
	柳井(1)		・数軒のホテルがあるものの設備・サービスの水準は低い。 ・白壁地区に町屋再生で連泊型宿泊施設を作れば欧米人旅行者もやってくるだろう。
	徳島(3.5)	・ホテルは充実している。全国的なサービス水準は3施設である。	・料金の安いビジネスホテルがほとんどで、サービス良いホテルは少ない。
	鳴門(2.5)	・ルネッサンスリゾートホテルが良く、その他、宿泊施設はたくさんある。	・全般的に全国的なサービス基準を下回る。
	高松(3)	・温泉宿・ビジネスホテルなど、宿泊施設はたくさんある。	・塩江温泉のサービス向上を望む。
	小豆島(3)	・良い宿もたくさんある。小さいながら島宿「真理」のような料理・部屋・サービスと素晴らしい宿もある。	・全国レベルのサービス水準の施設は2軒、ほとんどの施設が平均的または、それ以下である。
	松山(4)	・道後温泉では20余施設、松山市街のホテルも充実している。サービス面においても全国レベルの水準に達している。(但し、上位5～6施設)	
	新居浜(4)	・リーガロイヤルホテル新居浜があり、全国からお客がきて	

		も大丈夫な施設。		
以上を総合的に見て	岡山(3)		・岡山市単独の展開は限界があり、周辺地域（倉敷市・総社市など）との連携が不可欠。	
	倉敷児島(3)		・倉敷市として展開すべきである。美観地区など全国的な知名度のある資源と連携を図ることが好ましい。	
	呉(3)		・旧海軍・自衛隊色が極めて強い。瀬戸内リゾートとしての展開を強化することを望む。 ・大和ミュージアムを集客口として市域全体を周遊させる工夫が必要である。 ・呉の大きな特徴である造船をはじめとする工業技術を産業観光に生かすことも将来的には必要である。	
	竹原(3)		・竹原単独では地方スケールとなり、呉市・広島市、宮島（廿日市市）と広域連携が不可欠である。また、古い町並みの鞆の浦、尾道、御手洗との連携も同様。	
	岩国(3)		・観光地としては、宮島・広島とともに連携しながら誘致活動をすすめていくことが不可欠である。	
	柳井(2.5)	・重伝建地区としてはよく整備されている町並みである。		・宿泊機能、飲食機能、買物機能などの改善が不可欠である。
	徳島(2.5)			・阿波おどり以外なにもない感じ。 ・観光資源の集積度が少ない。
	鳴門(3)	・鳴門公園は周辺はとて見どころがある		・行政区域を越えて淡路島、徳島市と広域連携し、観光客誘致策を講じるべきである。
	高松(2.5)			・高松市は近隣観光地との連携が不可欠である。たとえば、琴平温泉郷、丸亀市、善通寺市など。
	小豆島(3.5)	・自然資源、人文資源がこれだけ豊富に集積されている瀬戸内の島はほかにない。知名度も高い。		
	松山(4)	・市内交通網、観光マップ、観光資源（道後温泉周辺など）ともに充実しており、観光地としての魅力は高い		・各観光資源への案内サインがほとんどなく、個人のまち歩きでは迷うことが多い。 ・全施設のより一層のサービス向上を期待したい。
	新居浜(3.5)	・歴史ロマン・登山・景観と全て別子銅山（産業遺産）というテーマで繋がっていて、目的意識を持ったツアーが組めそう。		・産業遺産の観光および登山以外の場合は他の観光地と連携せざるを得ない。

(2) 地域住民からの評価

ア. 各地域の資源の評価

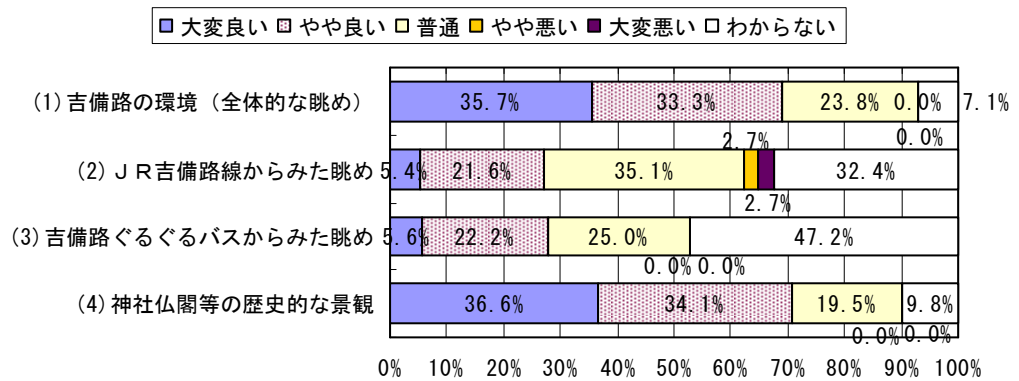
各地域のスローツーリズムコンテンツ及び観光資源について、地域住民からは次のように評価された。

a. 岡山地域

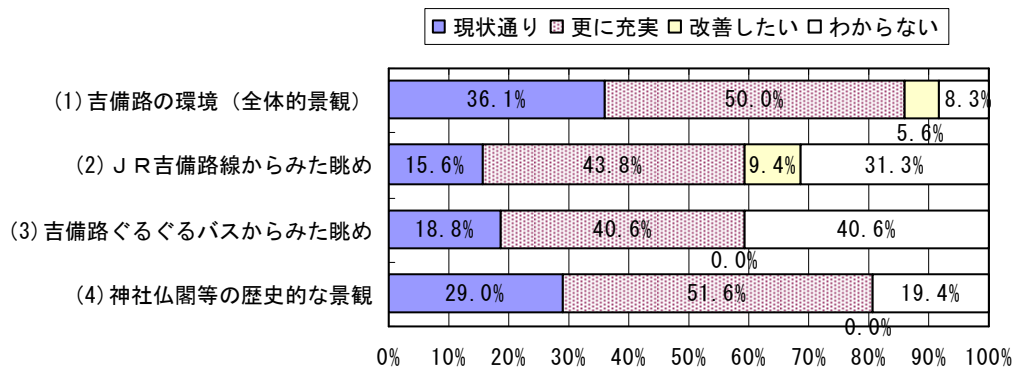
(環境・景観)

- ・吉備路や神社仏閣等の歴史的な景観が評価されている。吉備路ぐるぐるバスについては半数近い人が「わからない」と答えており、他に比べて認知度がやや低い。

岡山の環境・景観について



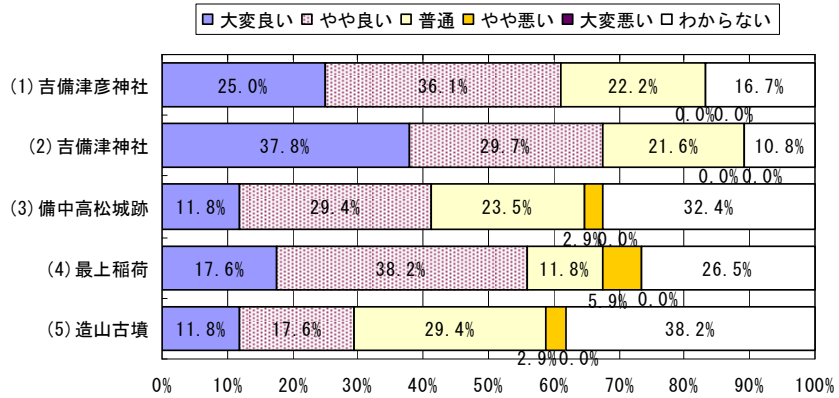
岡山の環境・景観を将来どうすべき



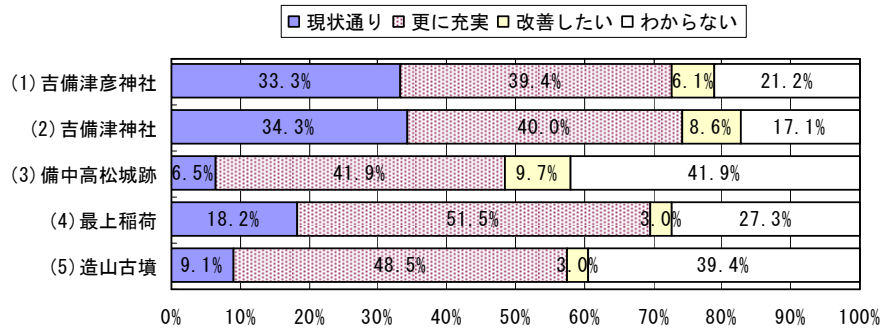
(観光資源)

- ・吉備津神社，吉備津彦神社が評価されている一方，備中高松城跡や造山古墳の認知度が低い。

岡山の観光資源について



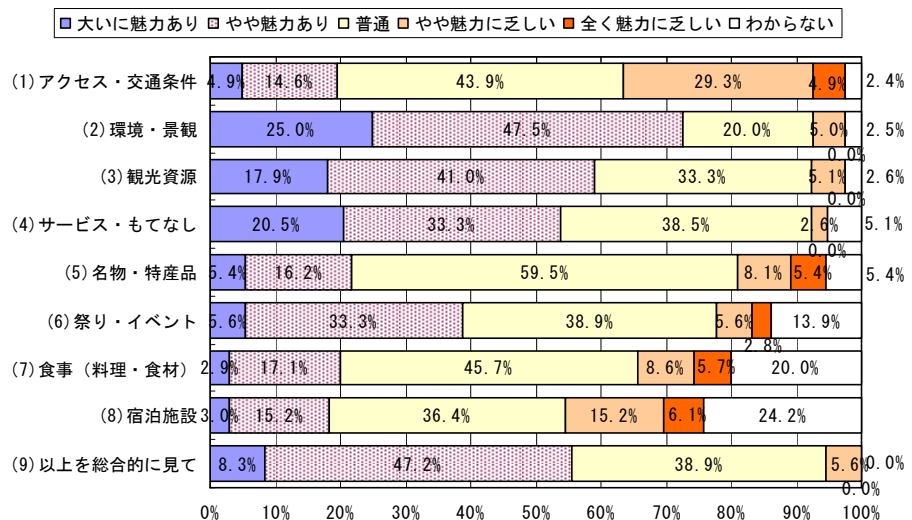
岡山の観光資源を将来どうすべき



(時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力)

- ・環境・景観，観光資源，サービス・もてなしなどの評価が高い一方，名物・特産品，食事，宿泊施設などの評価が低い。総合的に見て半数以上の人魅力があると答えている。

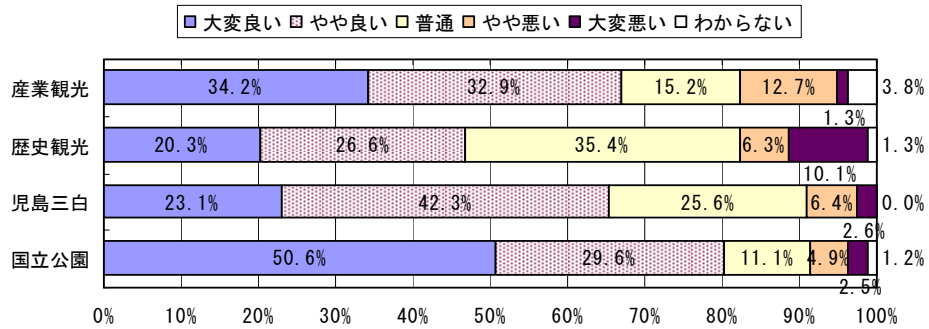
岡山の魅力度について



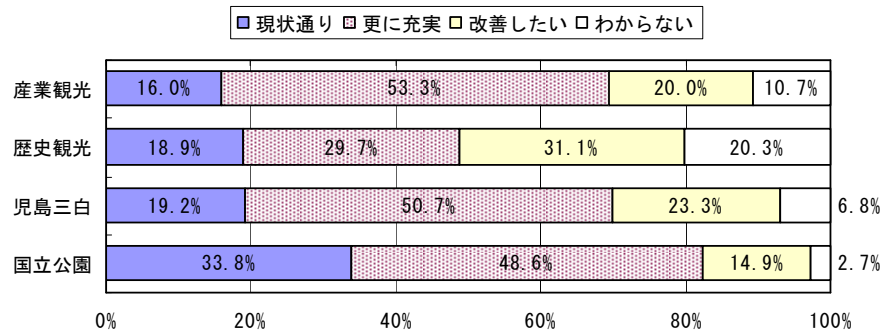
b. 倉敷児島地域
(観光資源)

- ・ 鷺羽山のある児島地域では国立公園の評価が高く、ジーンズ工場や制服工場などによる産業観光、塩、綿、魚の児島三白も一定の評価を得ている。

児島の観光資源について



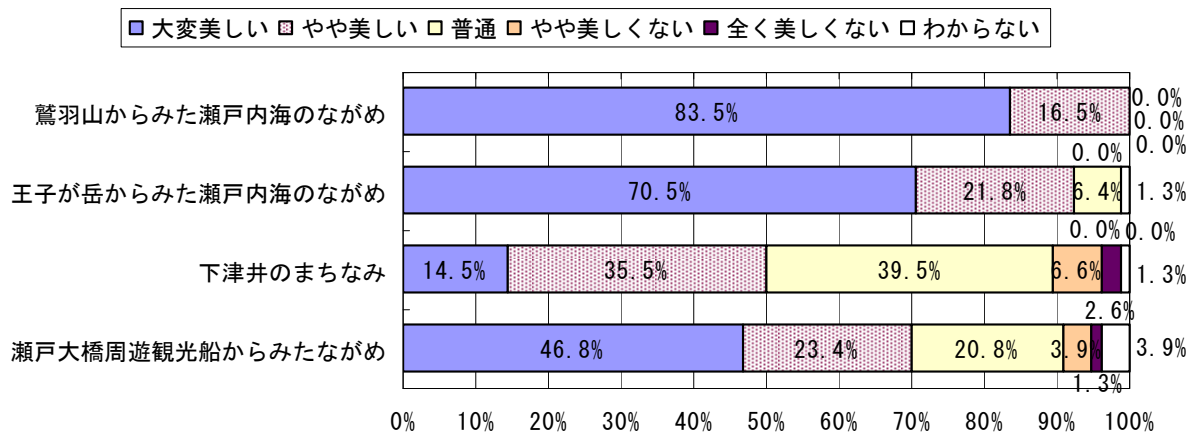
児島の観光資源を将来どうすべき



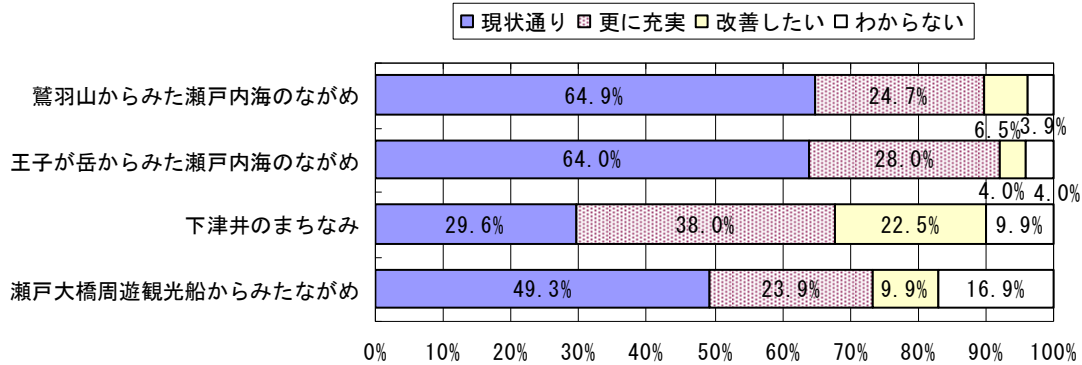
(環境・景観)

- ・ 鷺羽山と王子が岳という瀬戸内海国立公園に指定されている場所の評価が高い一方、下津井の町並みは他と比べると評価が低くなっている。

児島の環境や景色について



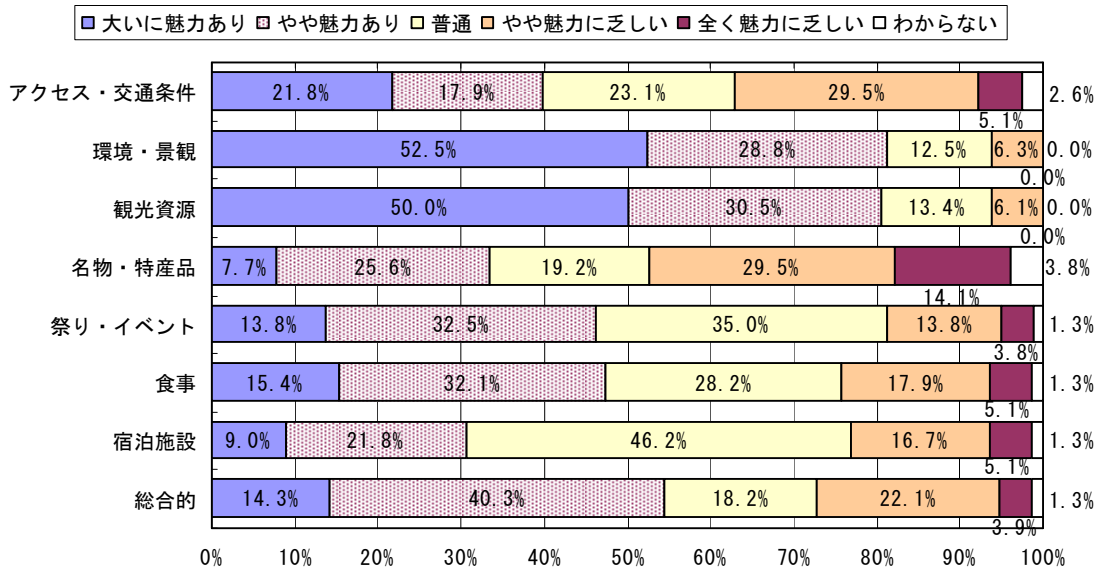
児島の環境や景色を将来どうすべき



(時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力)

- ・ 環境・景観，観光資源の評価が非常に高い。名物・特産品，宿泊施設に対する評価は他と比べて低い。アクセス・交通条件についてはJR瀬戸大橋線など広域的な交通について一定の評価がある一方，域内交通に対する評価が低い。

児島の魅力度について

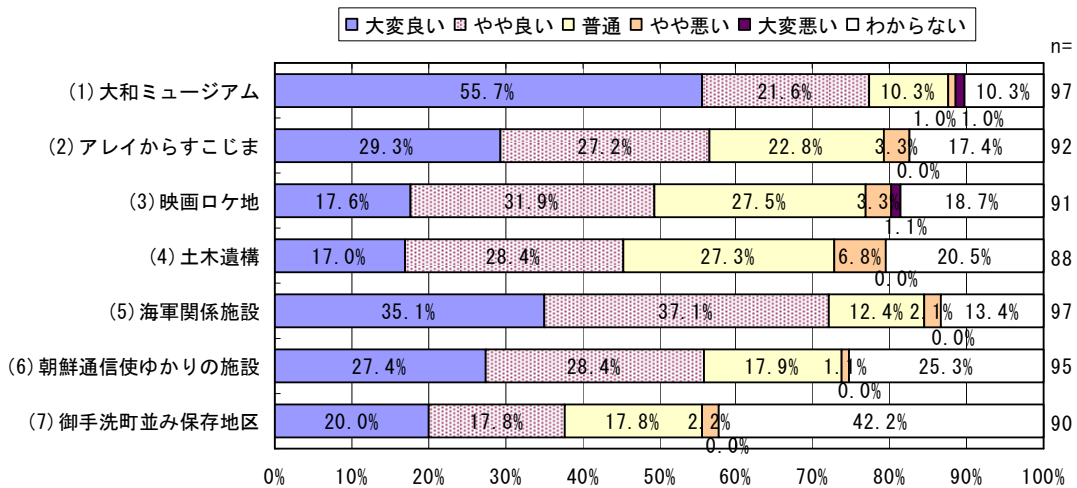


c. 呉地域

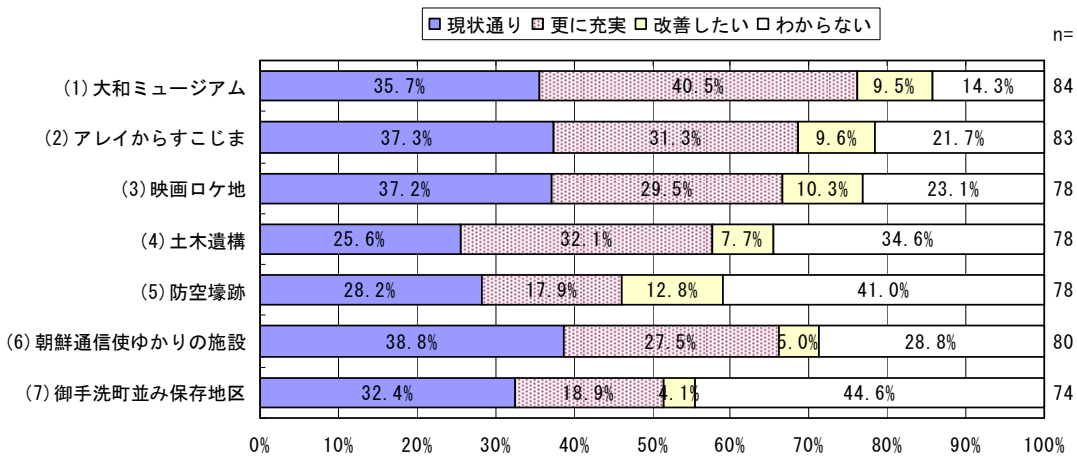
(観光資源)

- ・全国から集客している大和ミュージアムをはじめとして、海軍関係施設は地元住民からの評価も高く、地域の誇りとなっていることがわかる。

呉の観光資源について



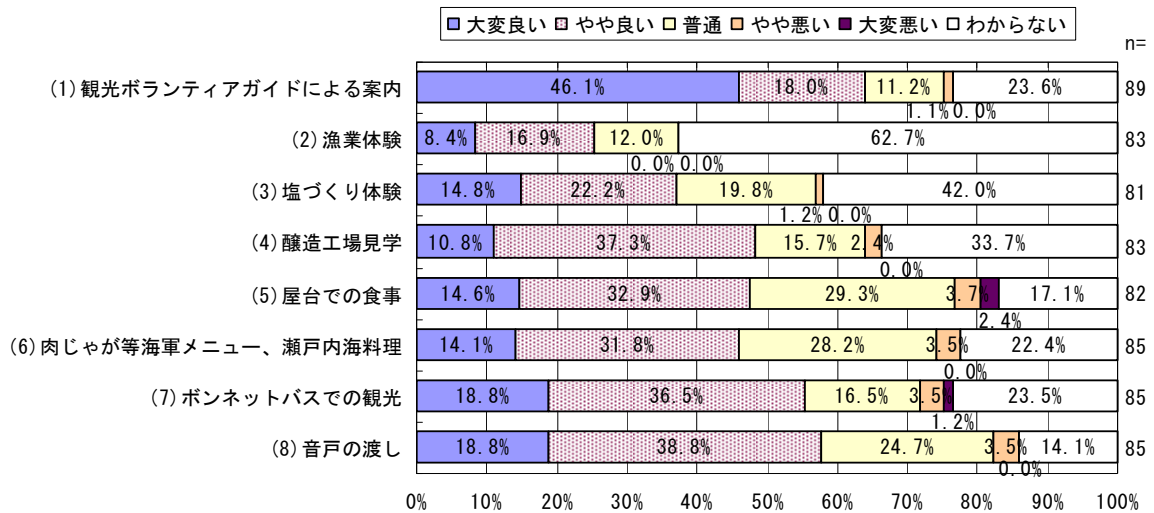
呉の観光資源を将来どうすべき



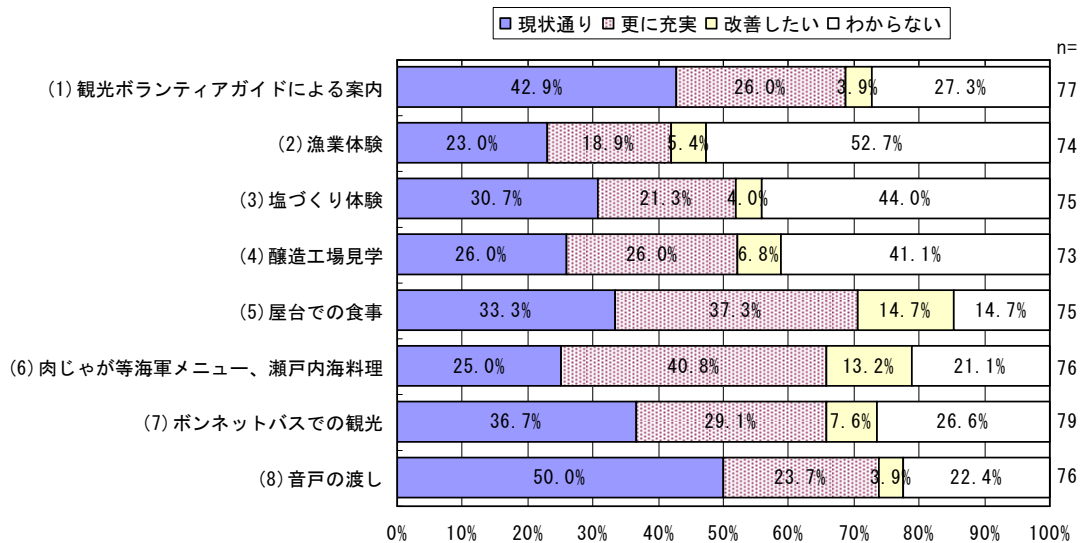
(新たな集客サービス)

・観光ボランティアガイドは、地元住民から評価されているが、その他のスロー
 ツーリズムメニューの評価は必ずしも高くなく、地元からあまり認知されてい
 ないものもみられる。

呉の新たな集客サービスについて



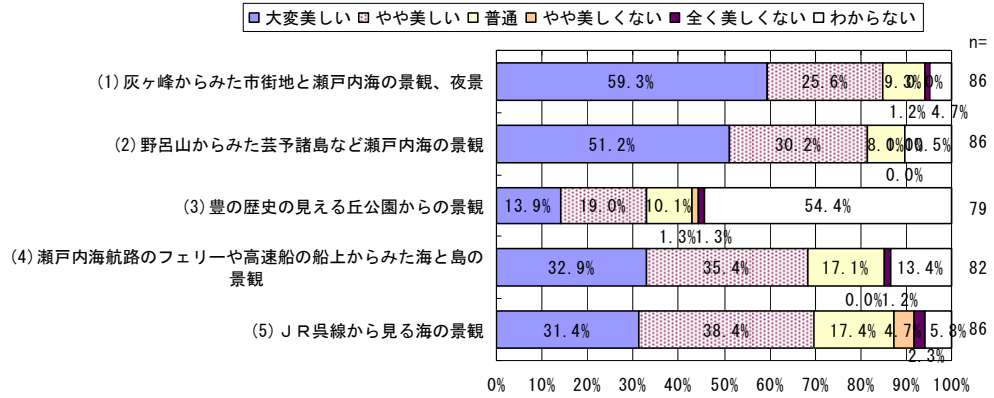
呉の新たな集客サービスを将来どうすべき



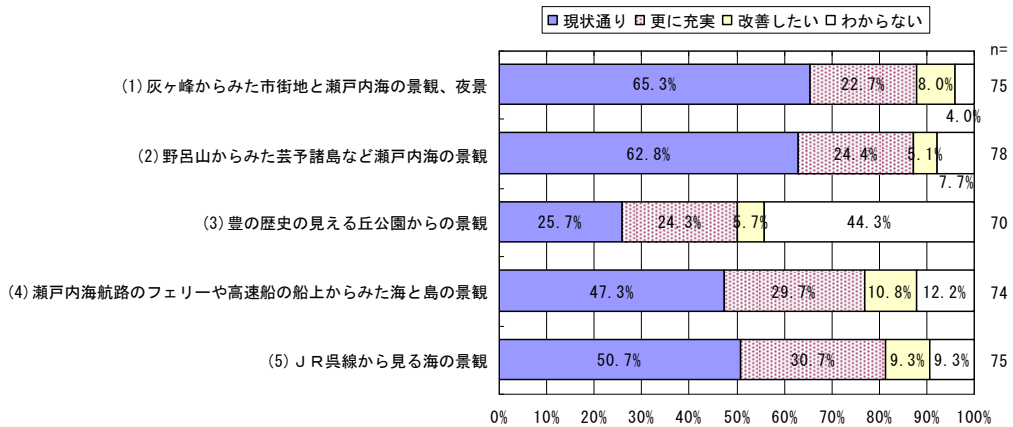
(環境・景観)

・海に迫る山頂からの景観や、海に見える景観は、地元の人々の評価も高い。

呉の環境や景色について



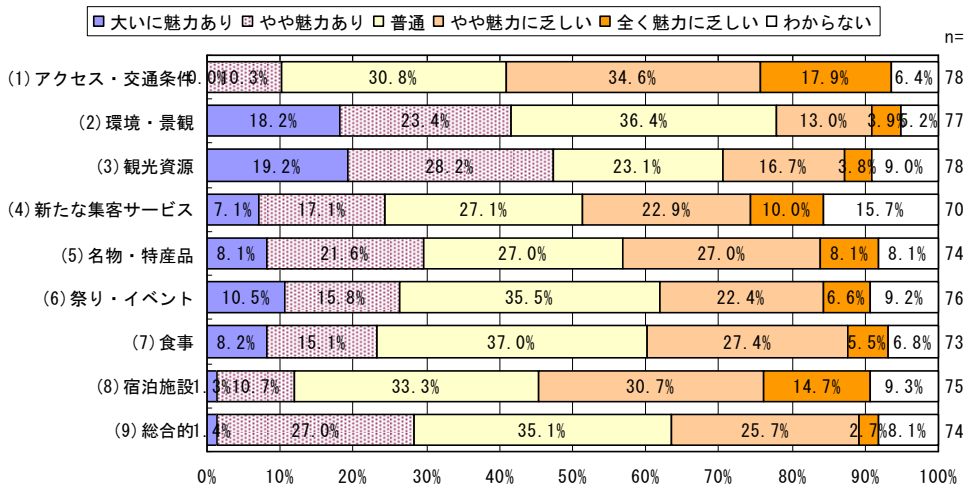
呉の環境や景色を将来どうすべき



(時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力)

・環境・景観、観光資源が若干評価されている以外は、総じて評価が低くなっており、住民としては観光地としての魅力はあまり感じていない結果となっている。

呉の魅力度について

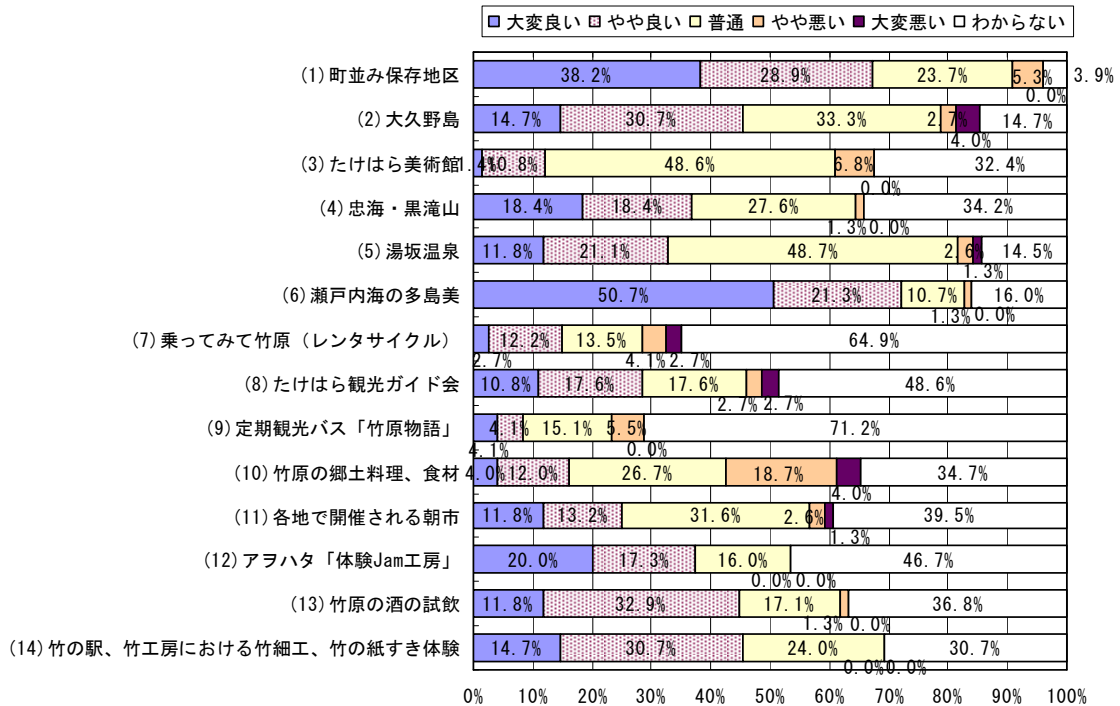


d. 竹原地域

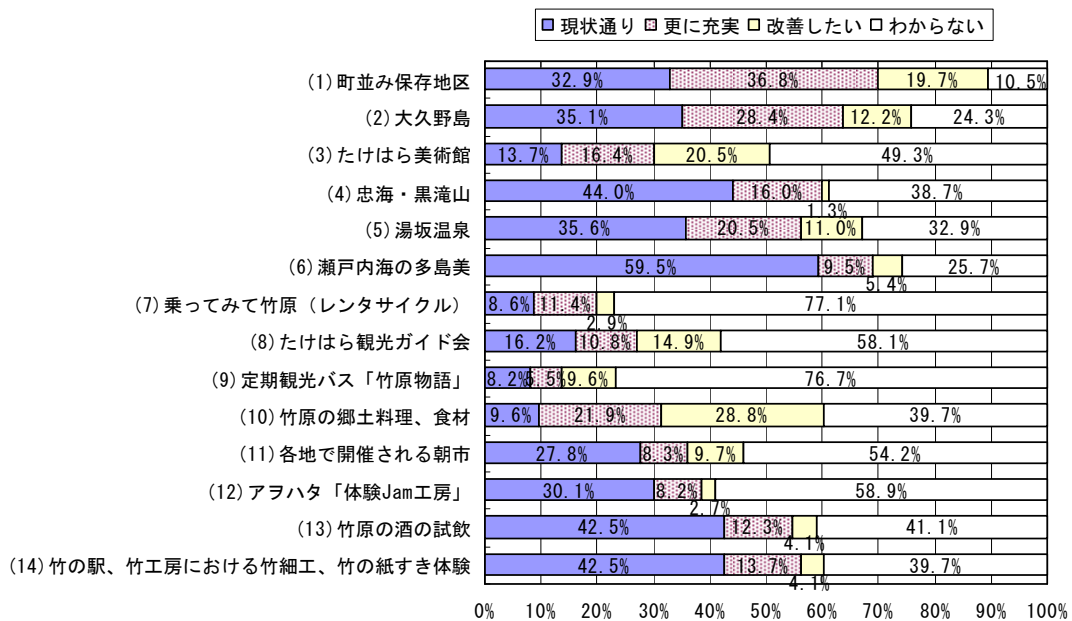
(観光資源・集客サービス)

- ・瀬戸内海の多島美，町並み保存地区は非常に良い評価を得ている。乗ってみて竹原（レンタサイクル）や定期観光バスは、「わからない」という回答が6～7割となっており，認知度が低い。

竹原の観光資源・集客サービスについて



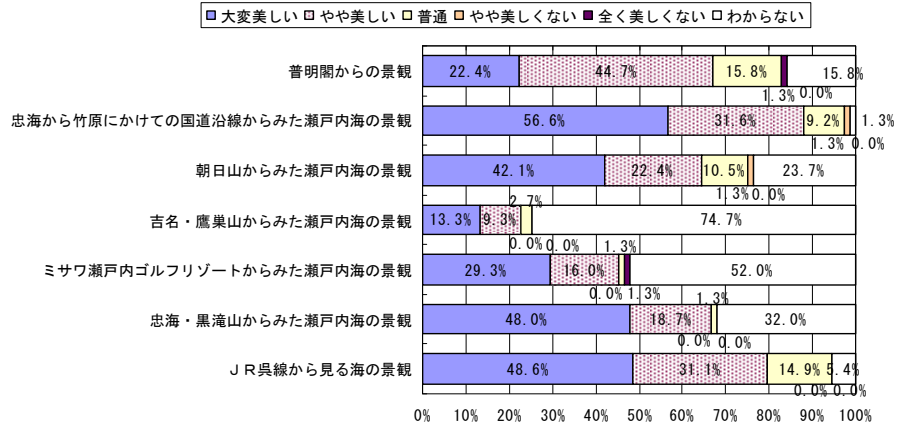
竹原の観光資源・集客サービスを将来どうすべき



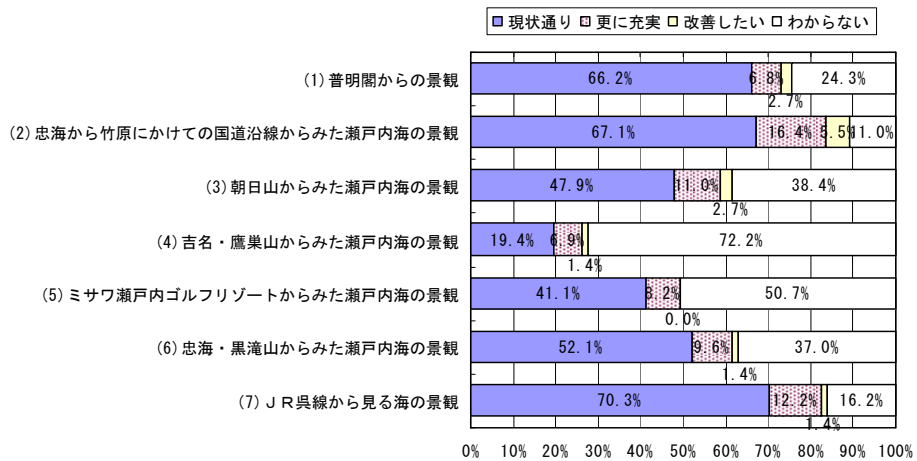
(環境・景観)

- ・ 忠海から竹原にかけての国道沿線からみた瀬戸内海の景観をはじめ、おおむね良い評価を得ているが、吉名・鷹巣山からみた瀬戸内海の景観は「わからない」が75%と認知度が低くなっている。

竹原の環境や景色について



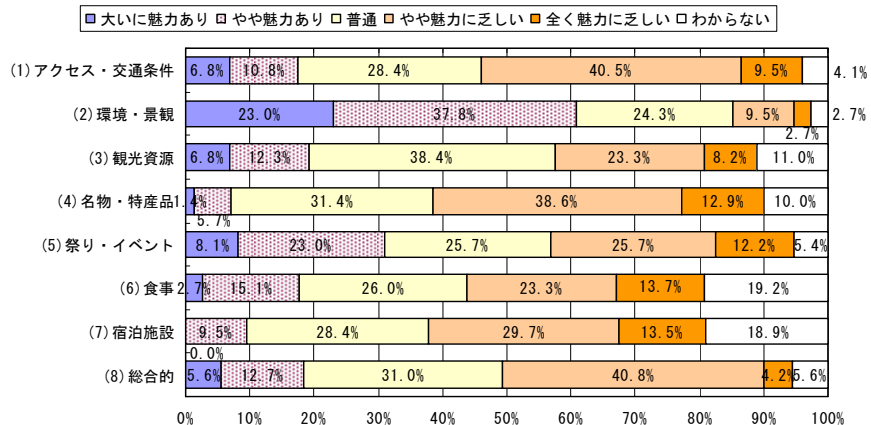
竹原の環境・景観を将来どうすべき



(時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力)

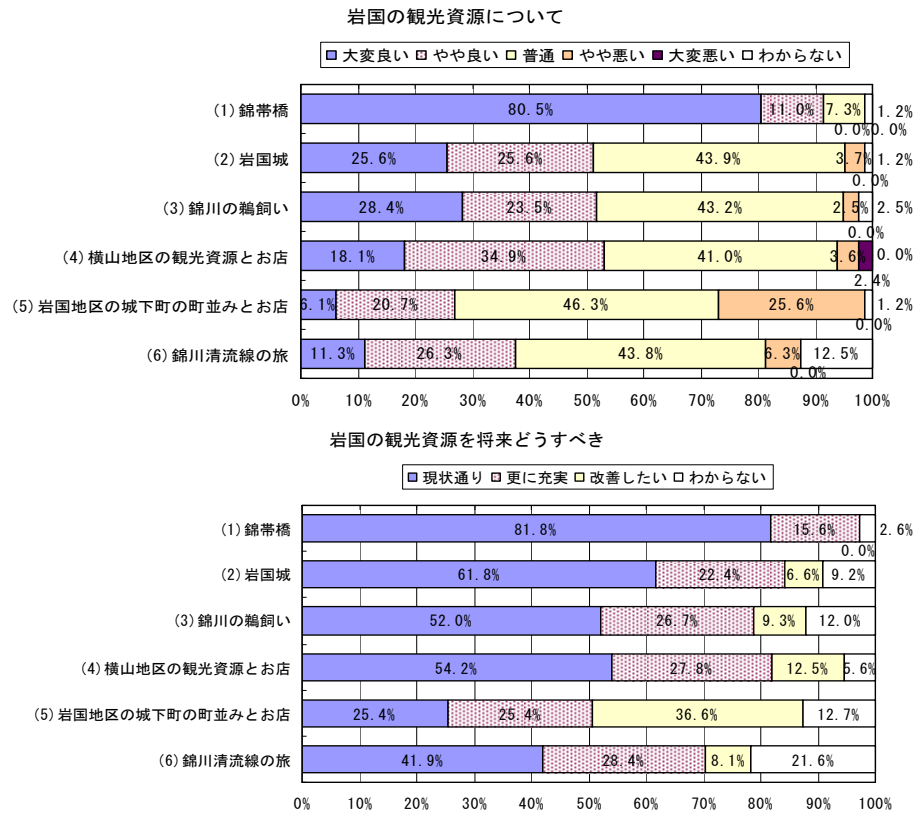
- ・ 環境・景観以外は観光地としての評価は総じて低くなっている。

竹原の魅力度について



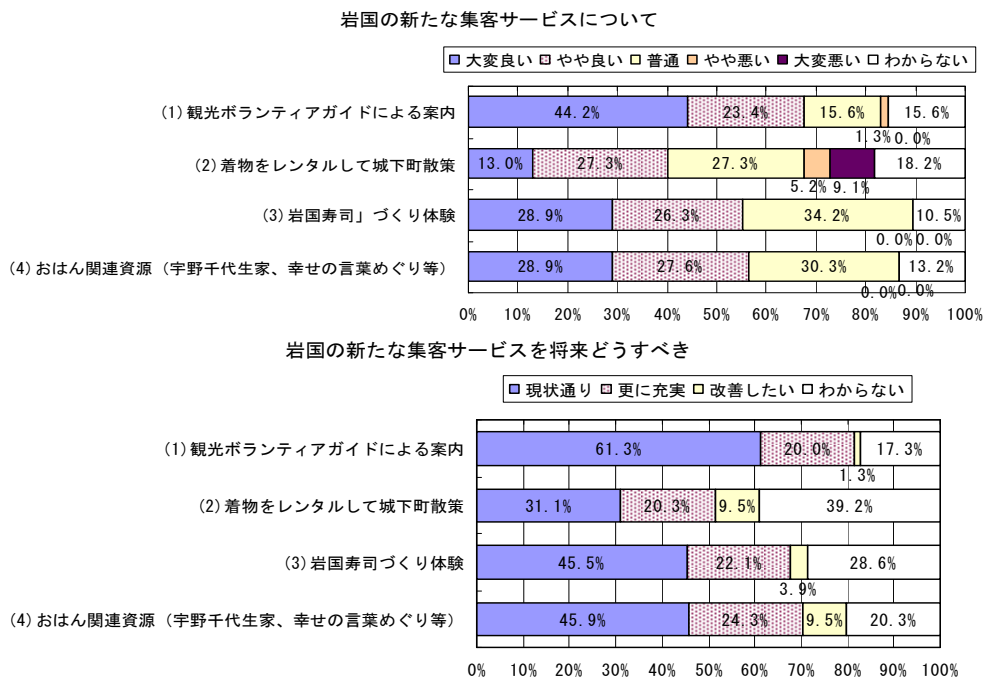
e. 岩国地域
(観光資源)

- ・ 錦帯橋が非常に高い評価を得ている。岩国観光の中心として位置づけられていることがわかる。



(新たな集客サービス)

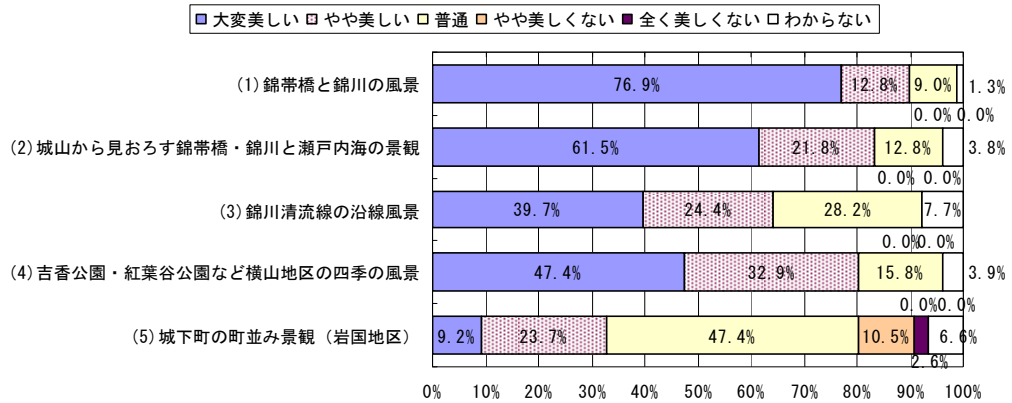
- ・ ボランティアガイドや岩国寿司づくり体験、おはん関連資源などは一定の評価を得ているが、着物レンタルは良い評価が4割にとどまっている。



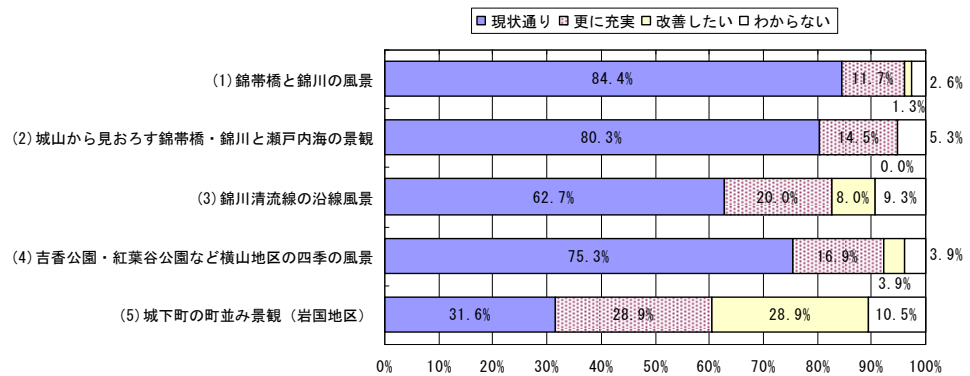
(景観・環境)

- ・ 錦帯橋と錦川については評価が高い。城下町の町並みについては良い評価が3割程度となっている。

岩国の環境や景色について



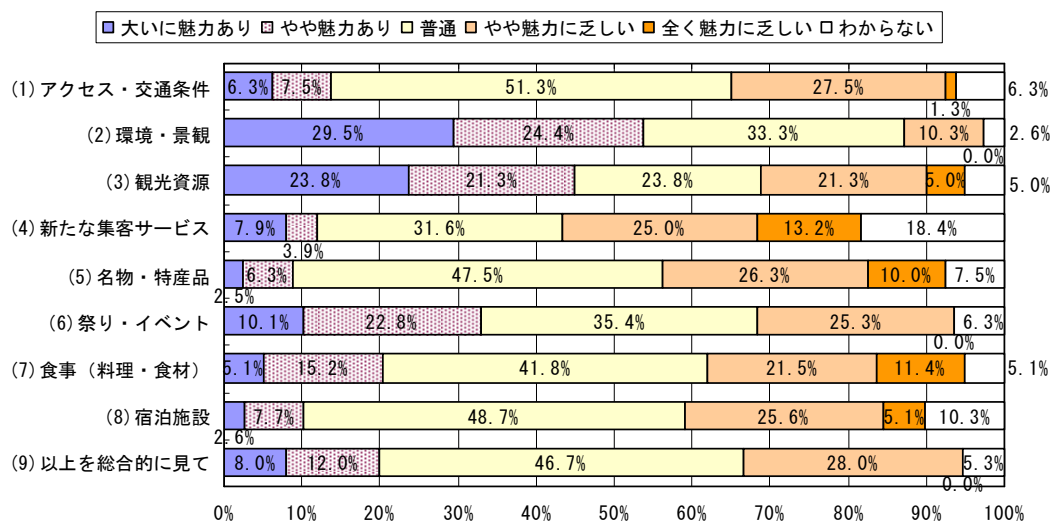
岩国の環境や景色を将来どうすべき



(時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力)

- ・ 環境・景観，観光資源については評価されているが，名物・特産品，宿泊施設などについての評価が低くなっている。

岩国の魅力について

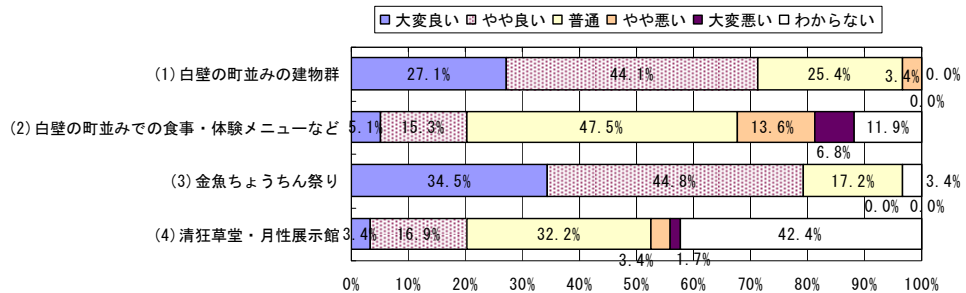


f. 柳井地域

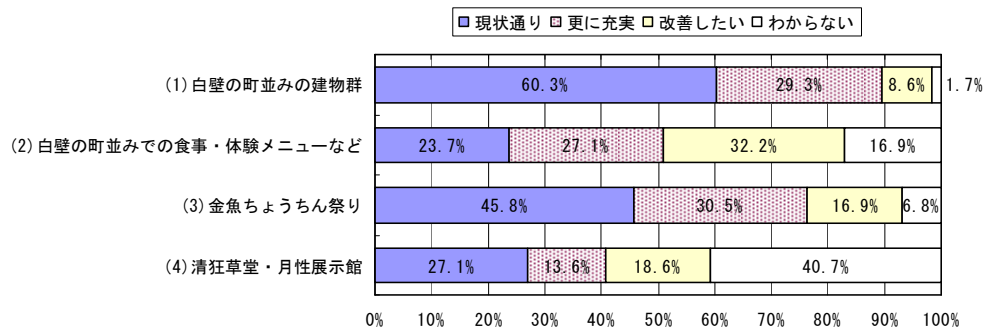
(観光資源)

- ・白壁の町並みや金魚ちょうちん祭りは高い評価を得ている。しかし、食事・体験メニュー、月性展示館は良い評価が2割程度にとどまっている。

柳井の観光資源について



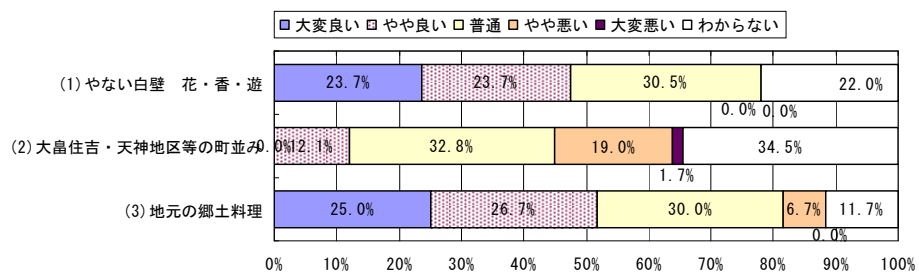
柳井の観光資源を将来どうすべき



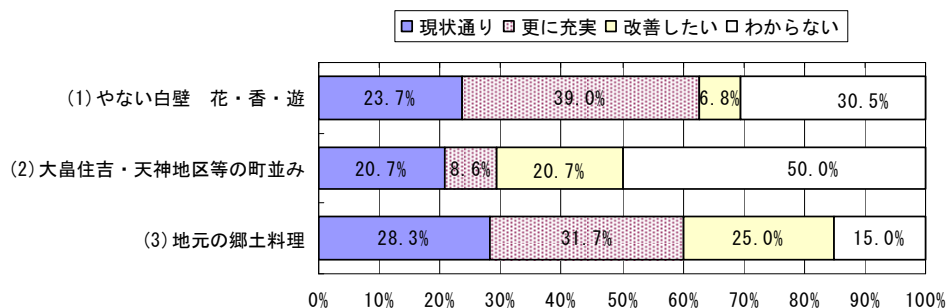
(新しい集客サービス)

- ・新しいイベント「やない白壁 花・香・遊」や地元の郷土料理が一定の評価を得ている。

柳井の新しい集客サービスについて



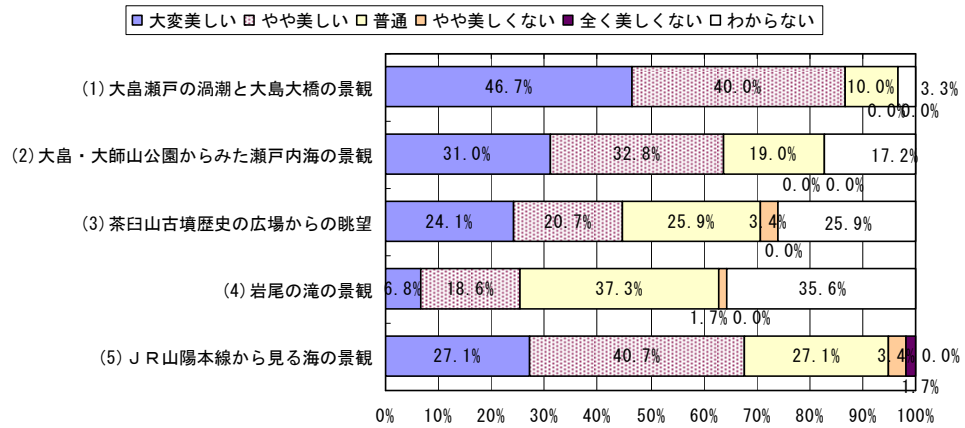
柳井の新しい集客サービスを将来どうすべき



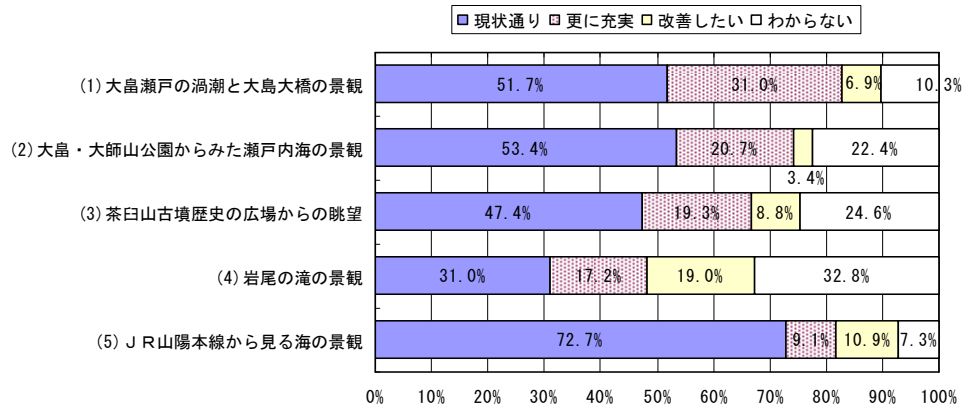
(環境・景観)

- ・大島瀬戸が最も良い評価を得ている。岩尾の滝については良い評価が25%程度と低く、認知度もあまり高くない。

柳井の環境・景観について



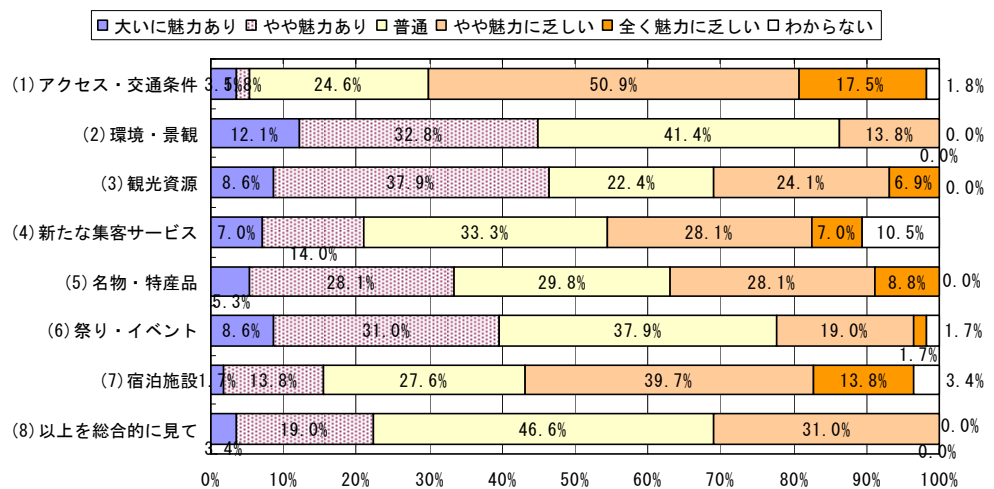
柳井の環境・景観を将来どうすべき



(時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力)

- ・アクセス・交通条件、宿泊施設について評価が低くなっている。

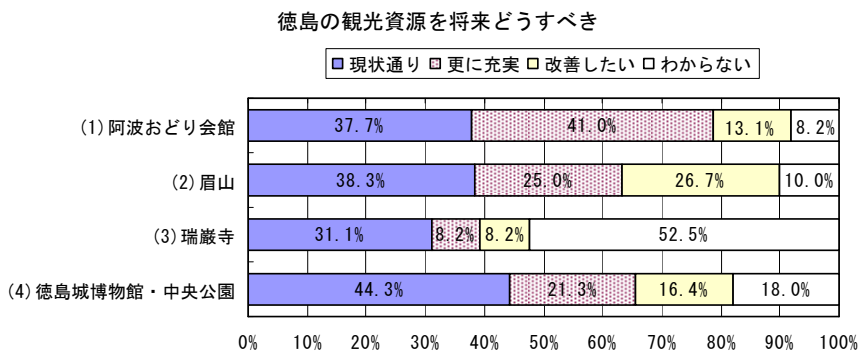
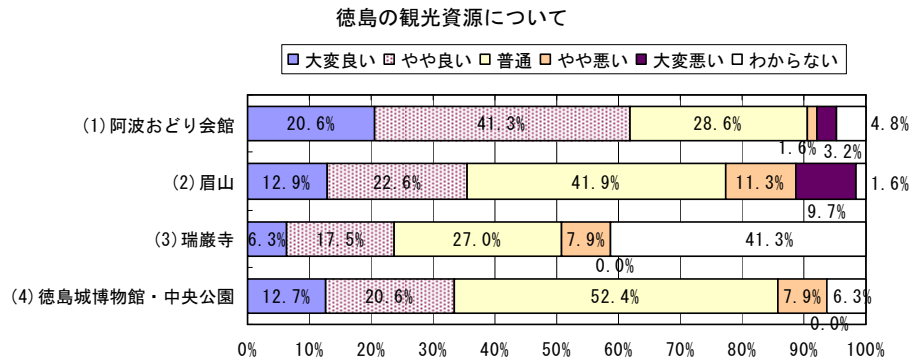
柳井の魅力度について



g. 徳島地域

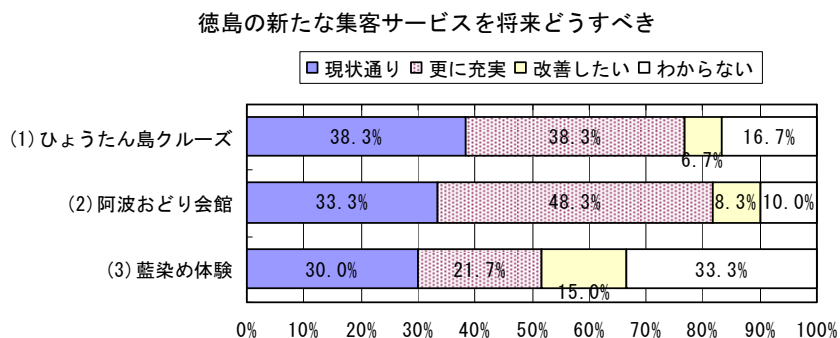
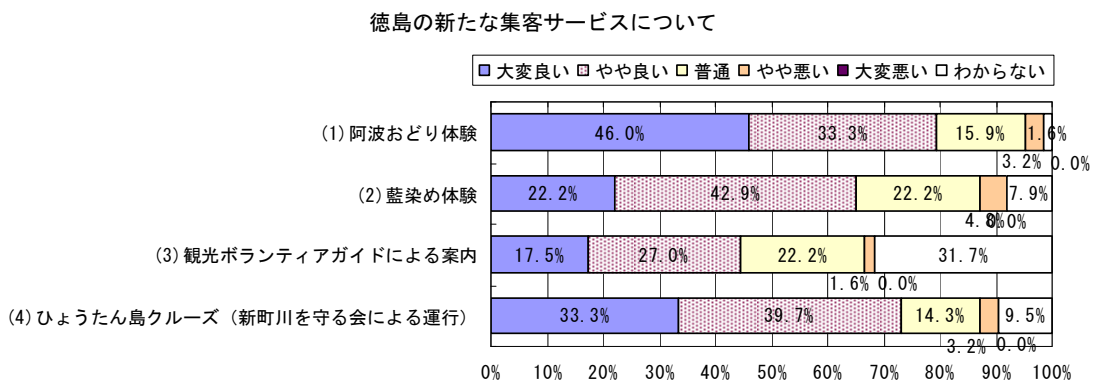
(観光資源)

- ・阿波踊り会館の評価は高い。瑞巖寺は「わからない」という会オツが40%以上と認知度が低い。



(新たな集客サービス)

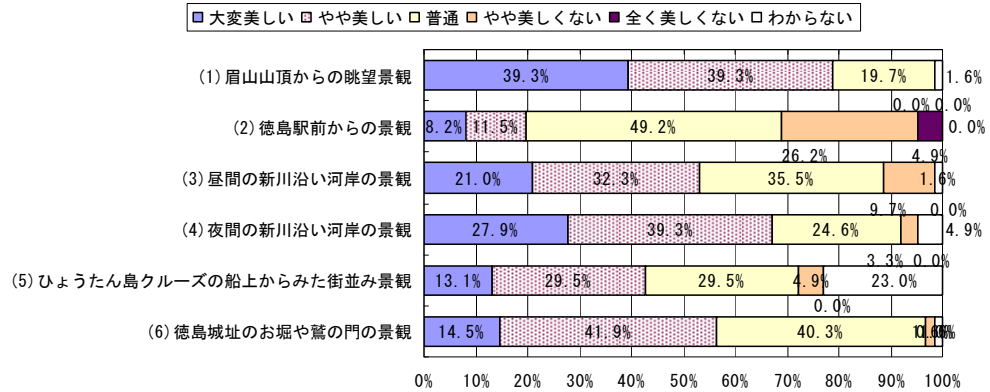
- ・阿波踊り体験，ひょうたん島クルーズが評価されている。観光ボランティアガイドは若干認知度が低い。



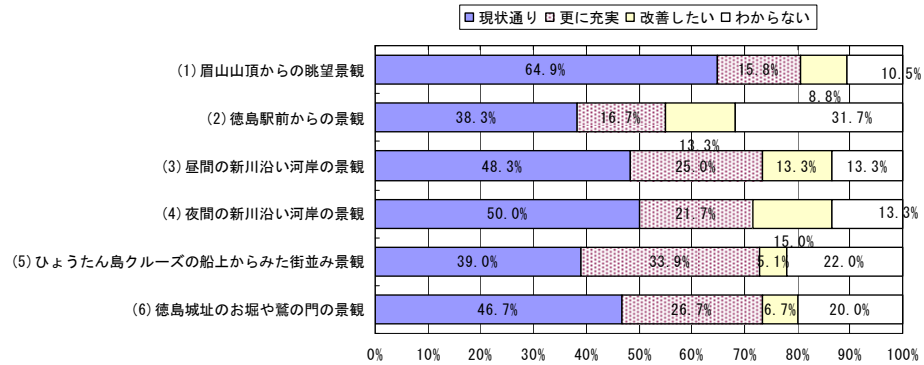
(環境・景観)

- ・眉山山頂からの眺望の評価が高い。また、夜間の新川沿い河岸の景観の評価が高い。

徳島の環境や景色について



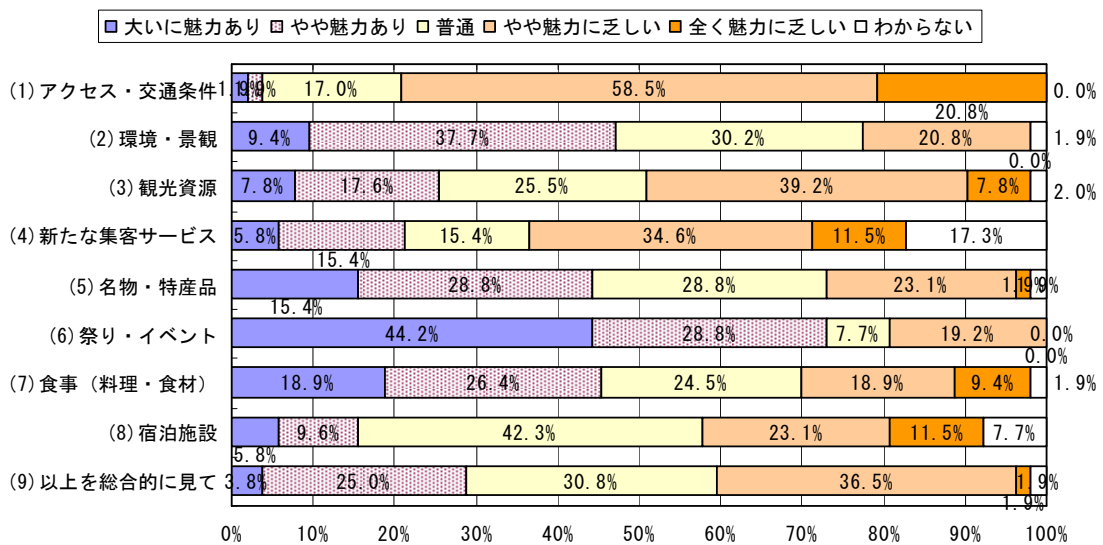
徳島の環境や景色を将来どうすべき



(時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力)

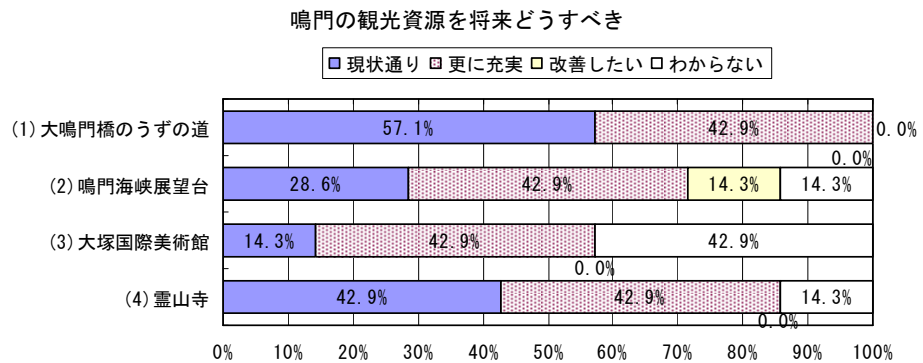
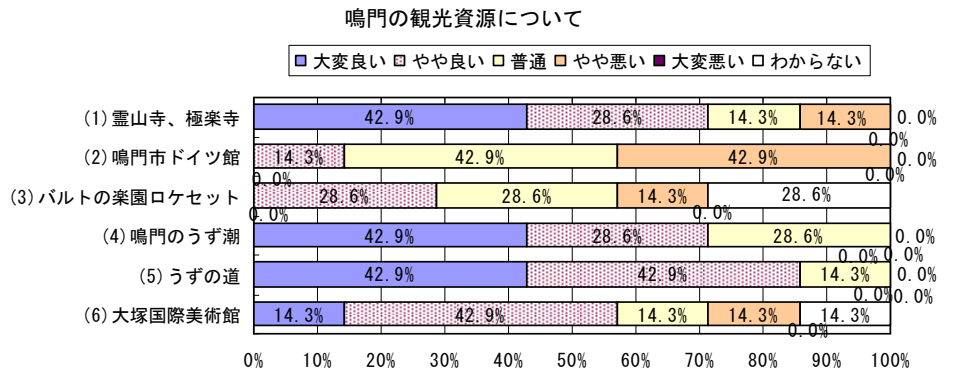
- ・阿波踊りを中心とする祭り・イベントの評価が非常に高い。アクセス・交通条件については魅力に乏しいとする人が8割近くに達している。

徳島の魅力度について



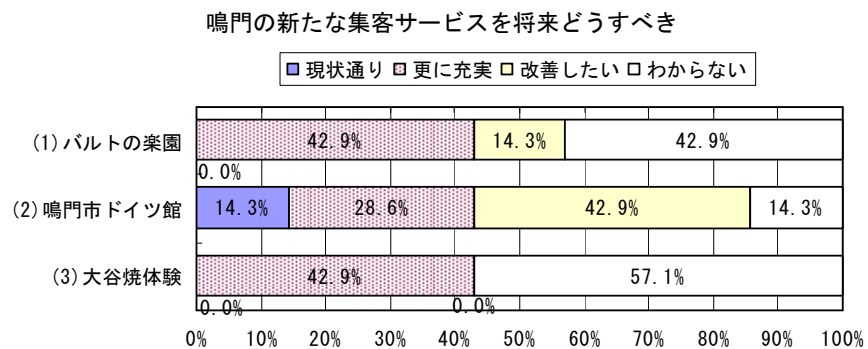
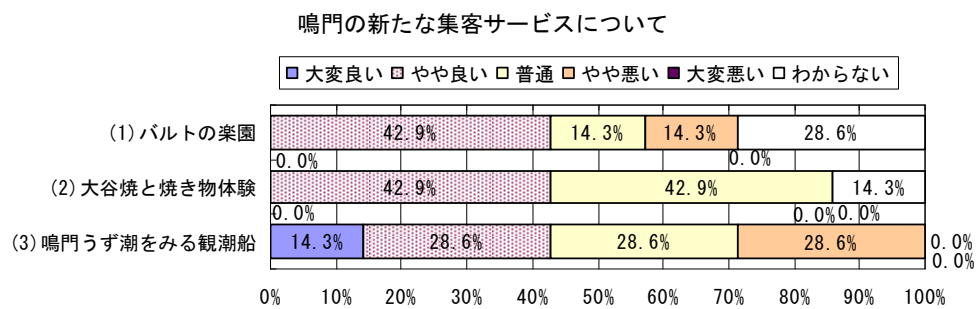
h. 鳴門地域
(観光資源)

- ・鳴門のうず潮とそれを鑑賞する大鳴門橋のうずの道の評価が高い。また四国八十八箇所巡りの一番札所霊山寺の評価も高い。



(新たな集客サービス)

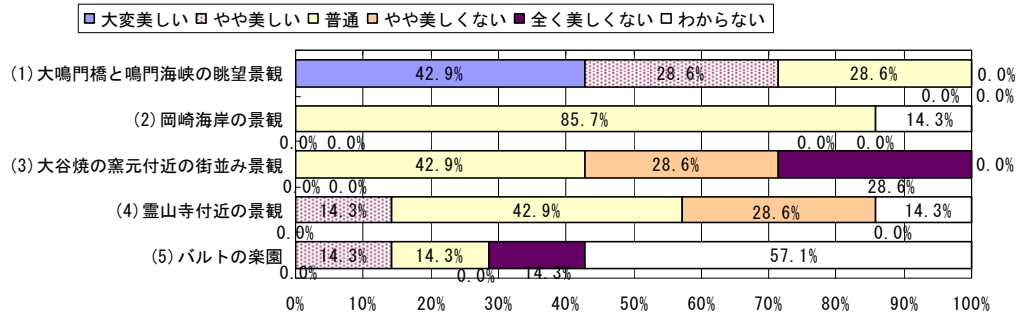
- ・大谷焼の焼き物体験、観潮船など、新たな集客サービスは一定の評価を得ている。



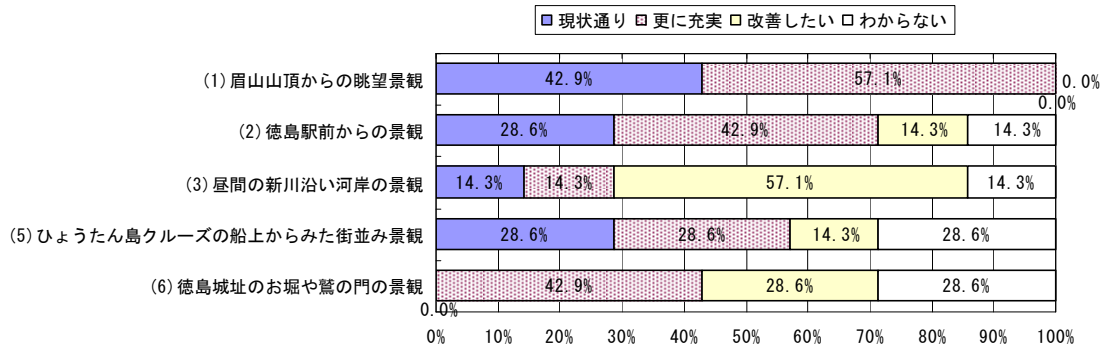
(環境・景観)

- ・鳴門海峡の景観が評価されている。映画ロケ地である「バルトの楽園」については認知度が低い。

鳴門の環境や景色について



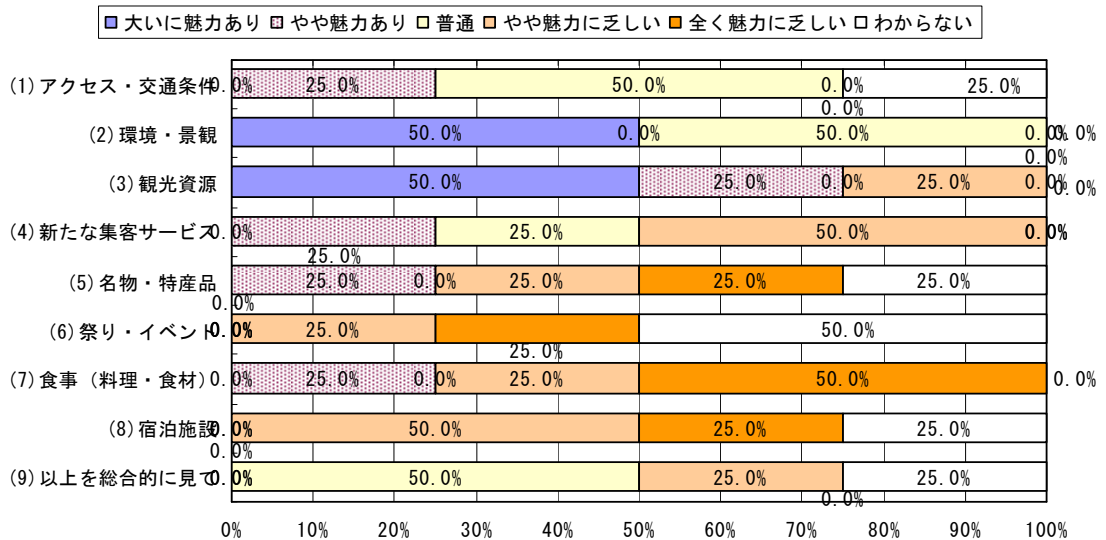
鳴門の環境や景色を将来どうすべき



(時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力)

- ・環境・景観の評価が高い一方、祭り・イベント、宿泊施設の評価が低い。

鳴門の魅力度について

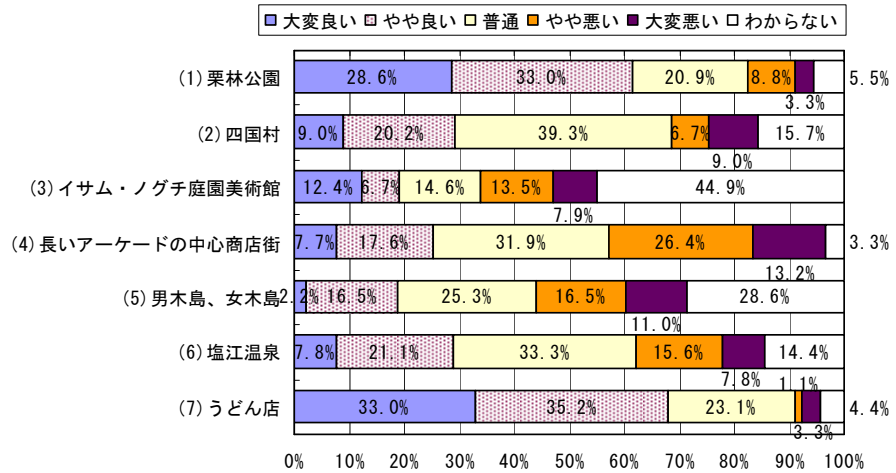


i. 高松地域

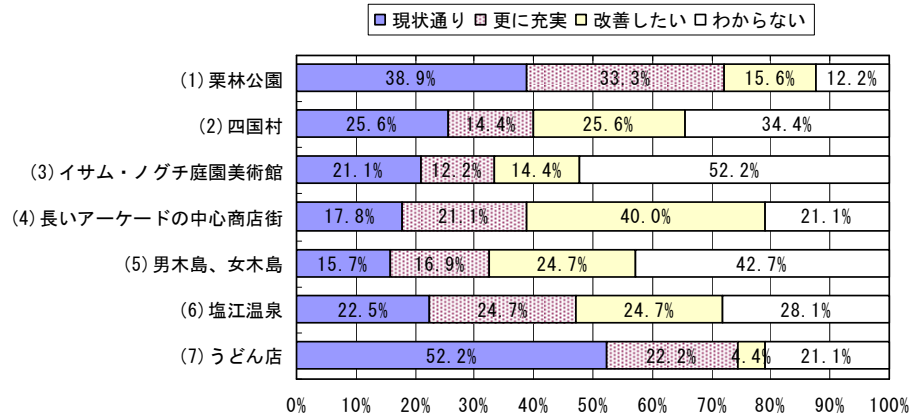
(観光資源)

- ・栗林公園とうどん店の評価が高い。イサムノグチ庭園美術館は「わからない」という回答が45%と高く、まだ知られていないことがわかる。

高松の観光資源について



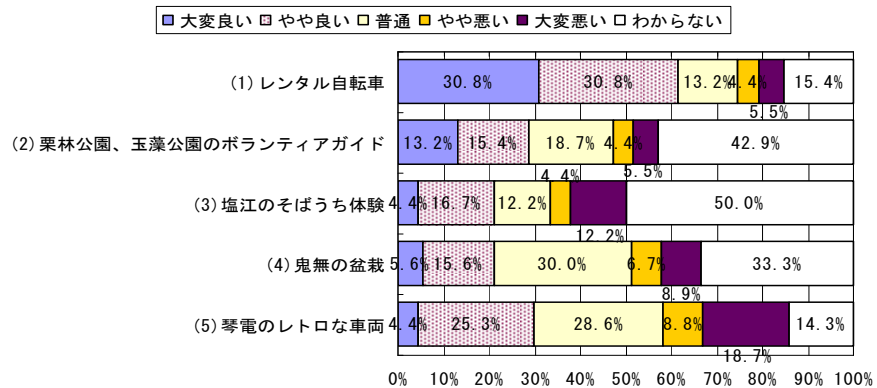
高松の観光資源を将来どうすべき



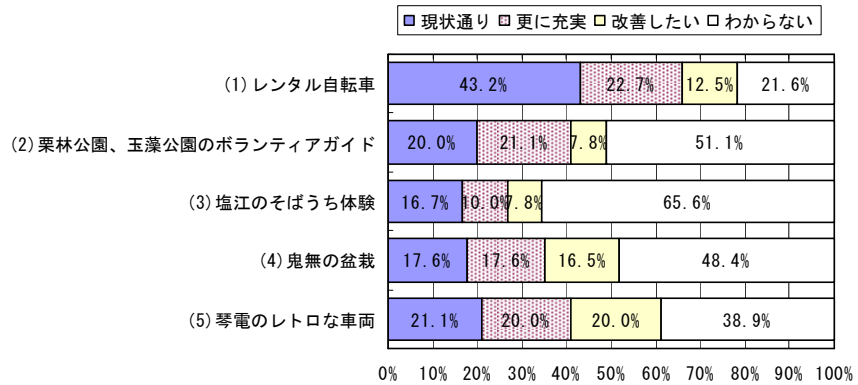
(新たな集客サービス)

- ・ボランティアガイドやそばうち体験は、良い評価が2～3割程度で「わからない」とする人が4～5割と、市民にはまだまだ知られていないと言える。

高松の新たな集客サービスについて



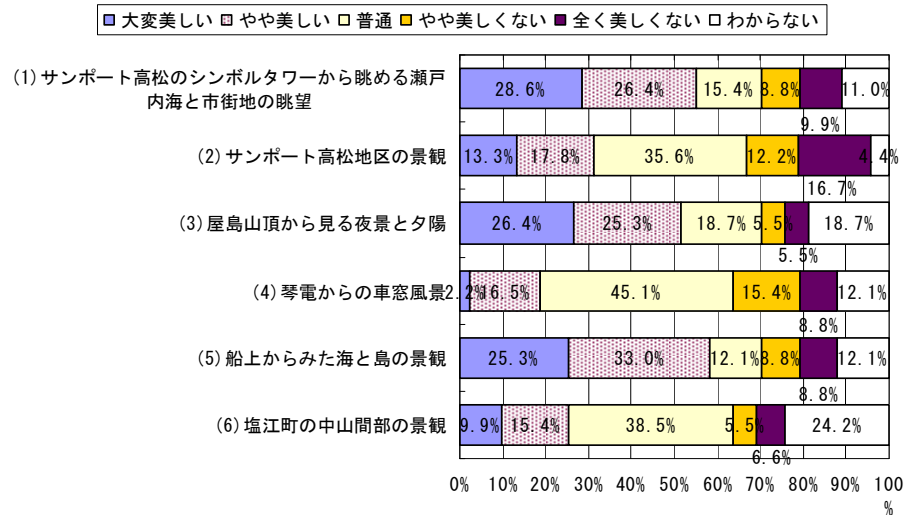
高松の新たな集客サービスを将来どうすべき



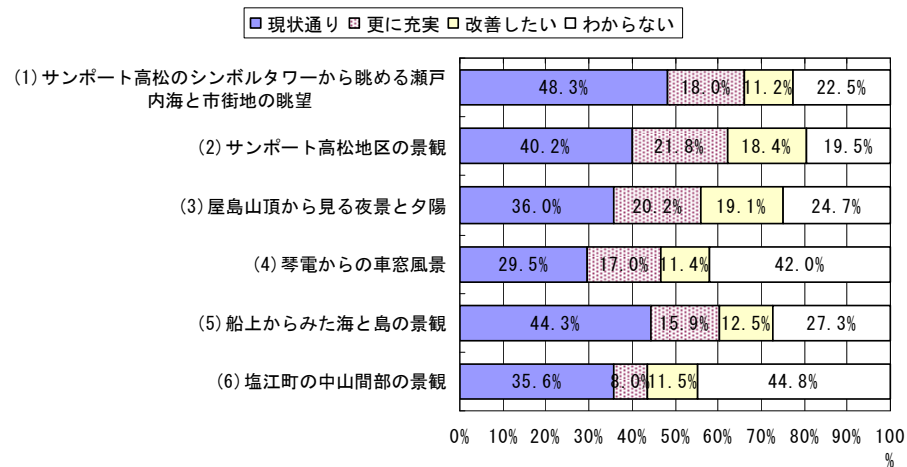
(環境・景観)

- ・サンポート高松，屋島山頂，船上からの景観は良い評価が過半数に達しているが，琴電からの車窓風景は良い評価が2割程度となっている。

高松の環境や景色について



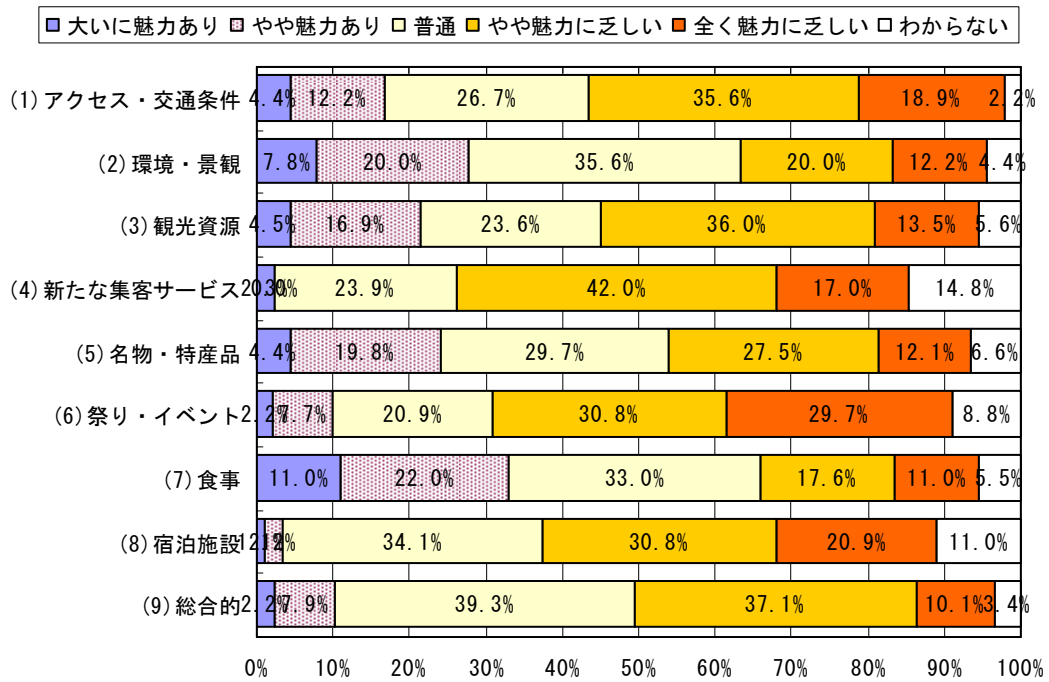
高松の環境や景色を将来どうすべき



(時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力)

・前の設問において讃岐うどんが評価されていることもあり、食事については3割以上の人が魅力があると回答しているが、その他は魅力に乏しいという回答が多くなっている。

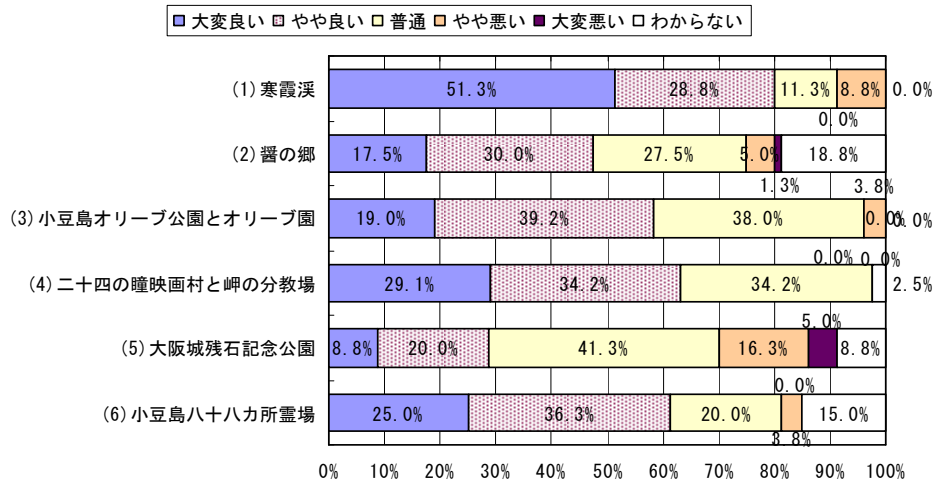
高松の魅力度について



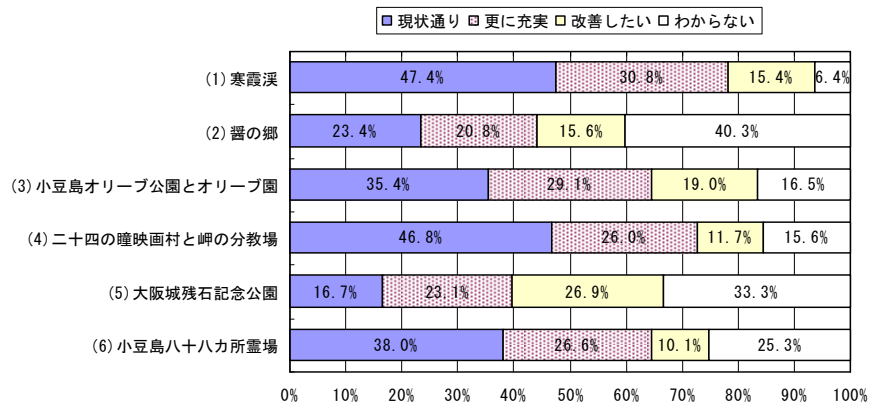
j. 小豆島地域
(観光資源)

- ・小豆島の観光資源の中核は寒霞渓であり、その他も一定の評価を得ているが、大阪城残石記念公園については良いという評価が3割以下となっている。

小豆島の観光資源について



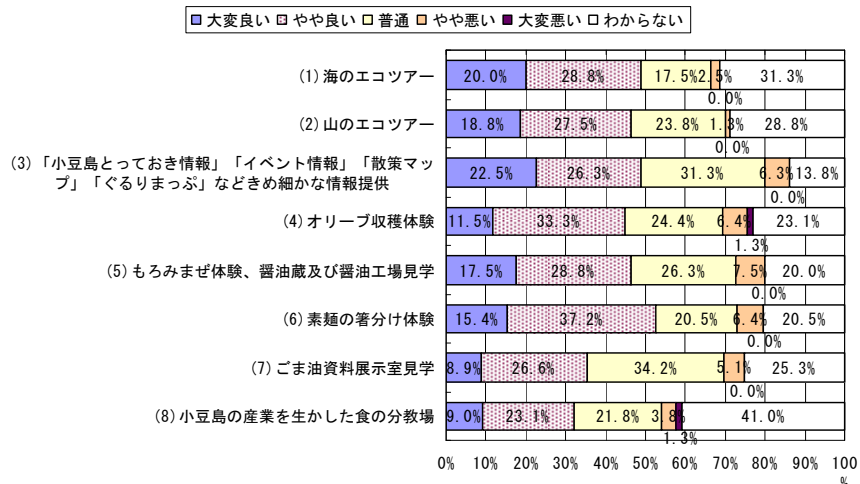
小豆島の観光資源を将来どうすべき



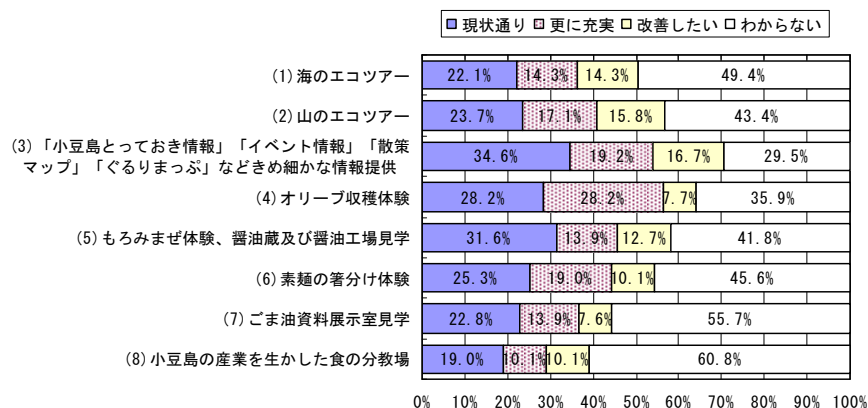
(新たな集客サービス)

- ・食の分教場（楽迎員）以外については「わからない」という回答は2～3割程度であり、知っている人に対しては良い評価を得ている。

小豆島の新たな集客サービスについて



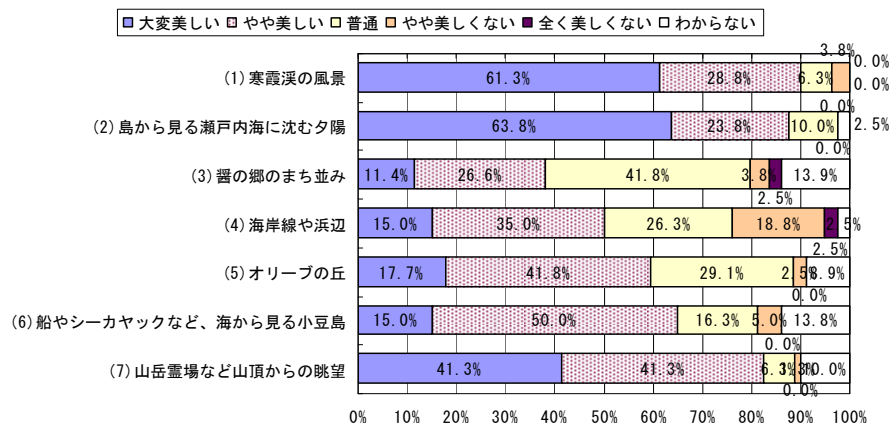
小豆島の新たな集客サービスを将来どうすべき



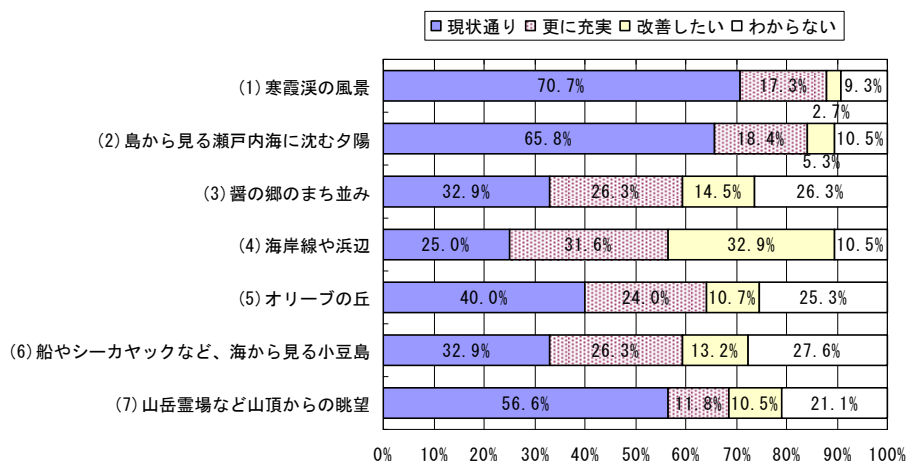
(環境・景観)

- ・ 寒霞溪や夕陽，山頂からの眺望は非常に高い評価を得ている。

小豆島の環境や景色について



小豆島の環境や景色を将来どうすべき

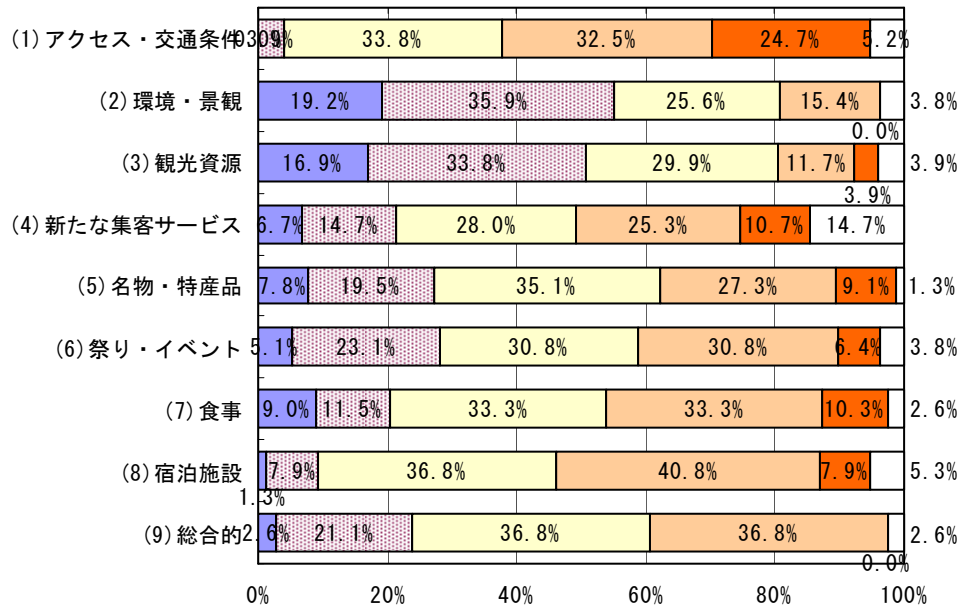


(時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力)

- ・環境・景観や観光資源については評価しているものの、島という特性からか、アクセス・交通条件については評価が低い。また、宿泊施設についても低い評価となっている。

小豆島の魅力度について

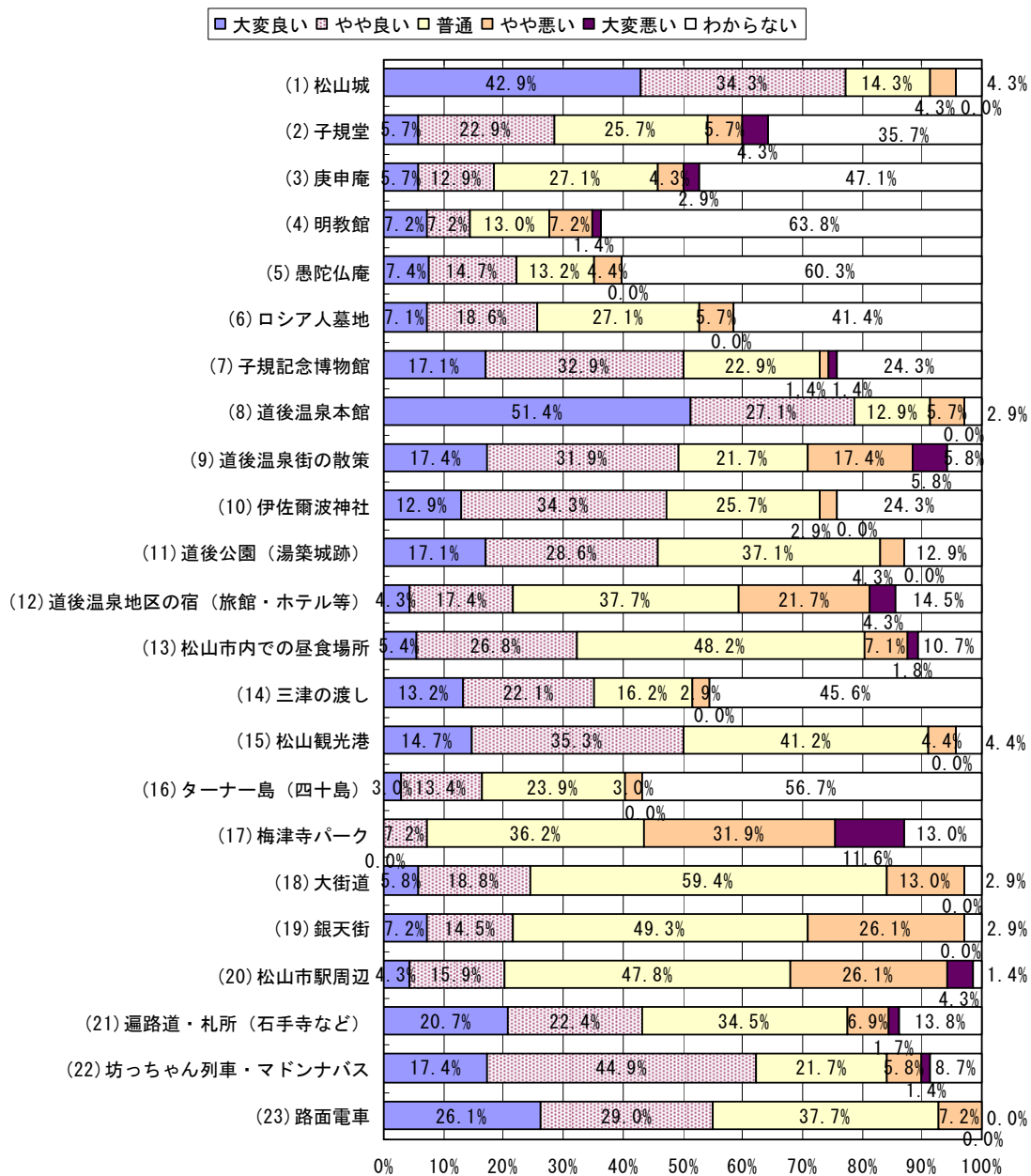
■ 大いに魅力あり □ やや魅力あり □ 普通 □ やや魅力に乏しい ■ 全く魅力に乏しい □ わからない



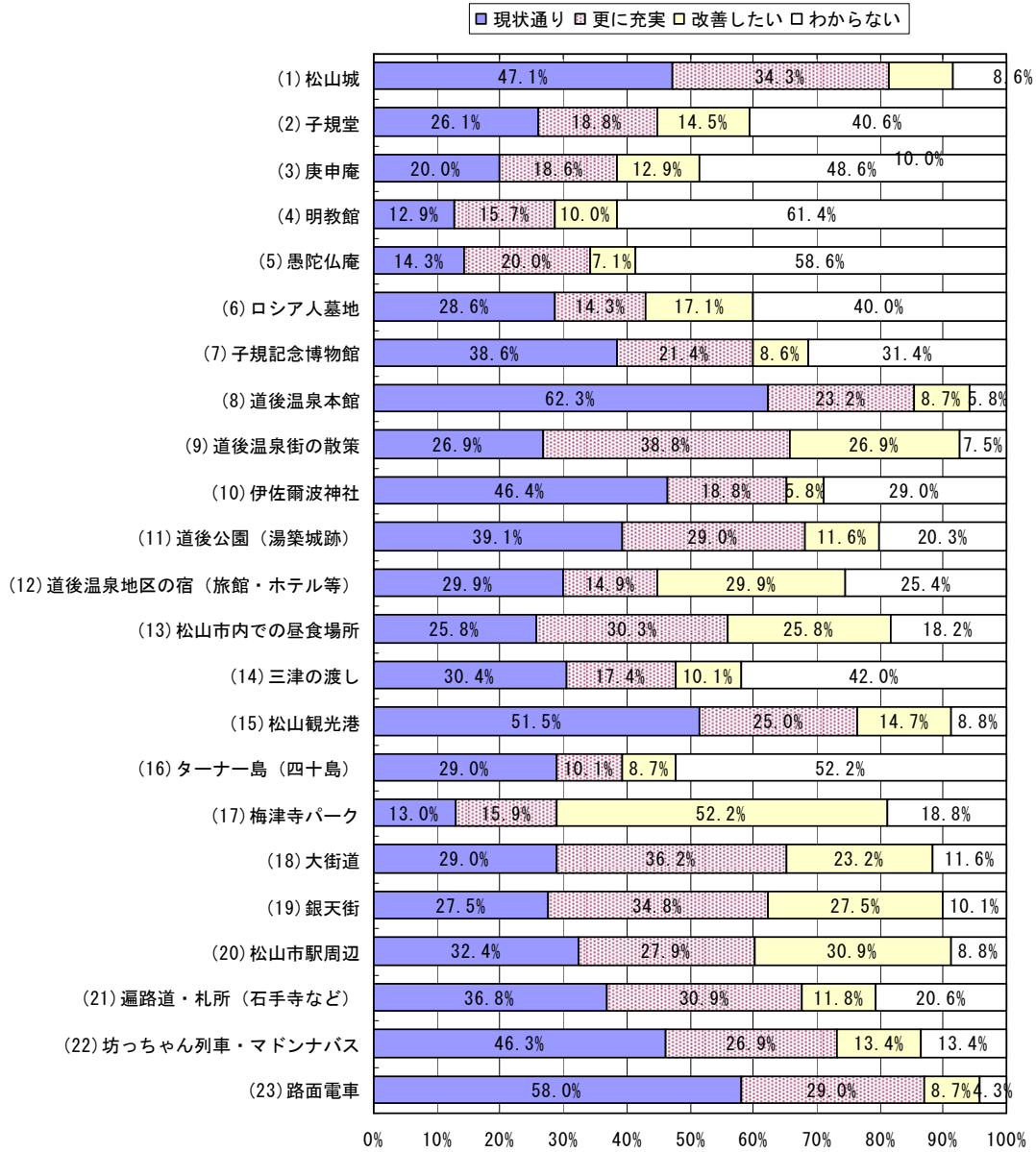
k. 松山地域
(観光資源)

- 道後温泉，松山城が観光資源の中心的存在となっていることがわかる。その他坊ちゃん電車やマドンナバス，路面電車が良い評価をうけている。「わからない」という回答が多かった認知度の低いものとしては，名教館，愚陀仏庵，ターナー島などが挙げられる。

松山の観光資源について



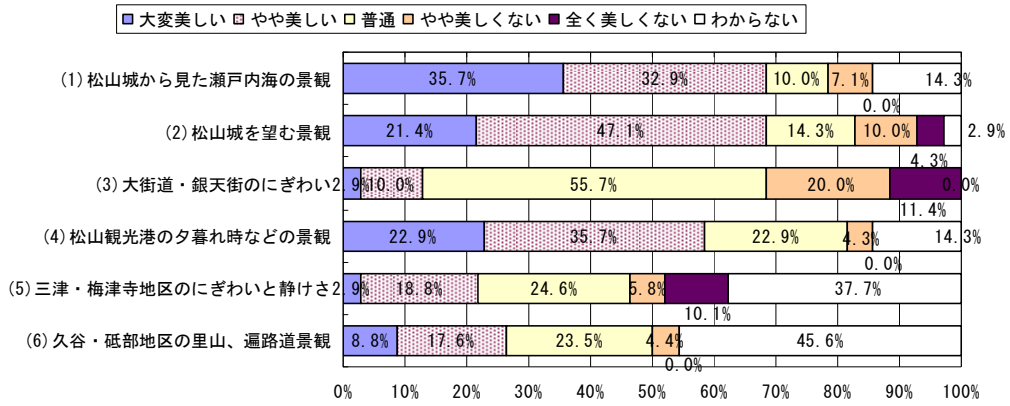
松山の観光資源を将来どうすべき



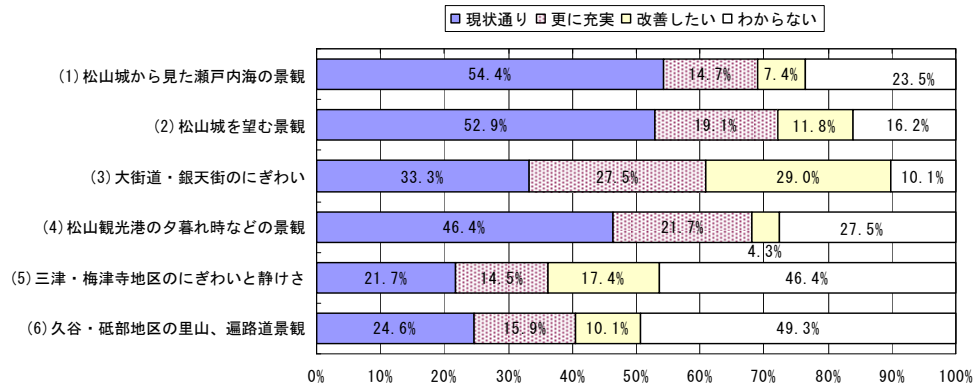
(環境・景観)

- ・松山城から見た景観，松山城を望む景観が評価されている一方，三津・梅津寺地区や久谷・砥部地区については「わからない」という回答が多かった。

松山の環境や景色について



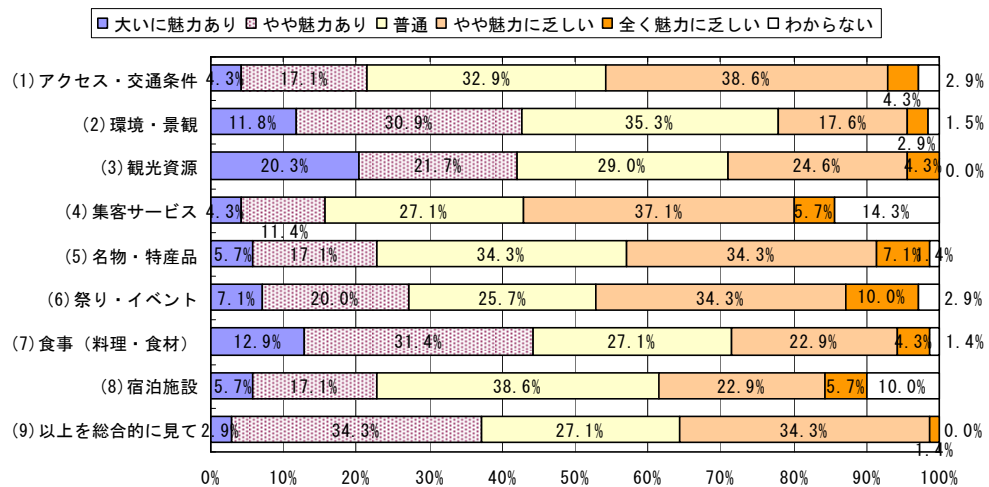
松山の環境や景色を将来どうすべき



(時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力)

- ・観光資源，食事，環境・景観については評価されているが，アクセス・交通条件などの評価が低い。

松山の魅力度について

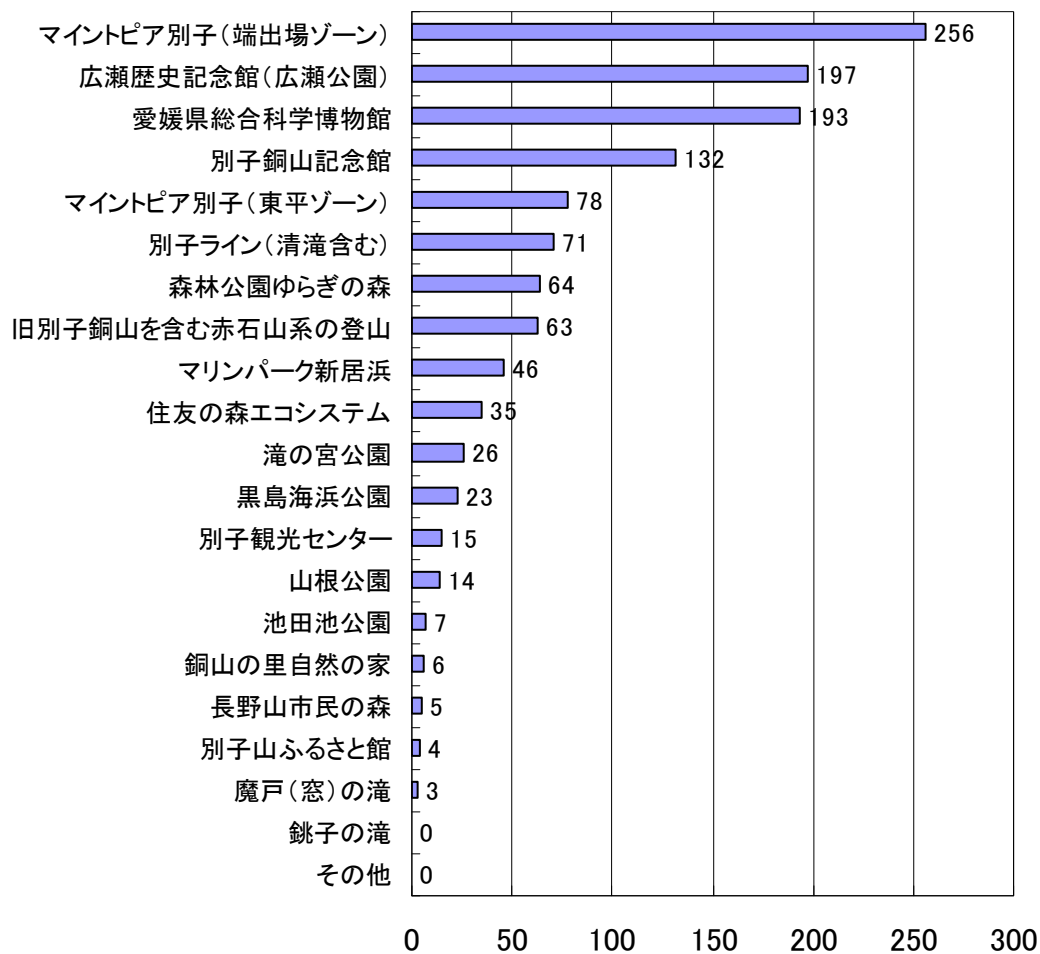


1. 新居浜地域

(市外の人を案内したい観光・文化資源)

- ・新居浜地域は市外の人に案内したい観光・文化資源を聞いており、マイントピア別子（端出場ゾーン）、広瀬歴史記念館、愛媛県総合科学博物館が上位を占めた。

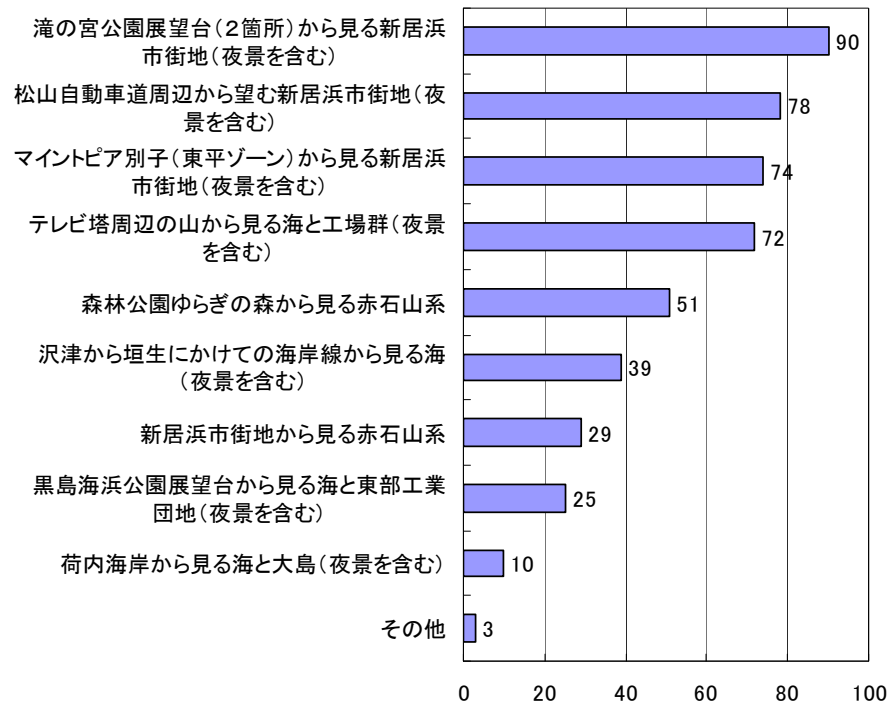
合計得点(1位:5点, 2位:4点, 3位:3点, 4位:2点, 5位:1点)



(市外の人に見せたい美観ポイント)

・新居浜地域は市外の人に見せたい美観ポイントを聞いており、滝の宮公園展望台、松山自動車道周辺、マイントピア別子、テレビ塔周辺の山など、山から新居浜市街地を望む景観に対する評価が高い。

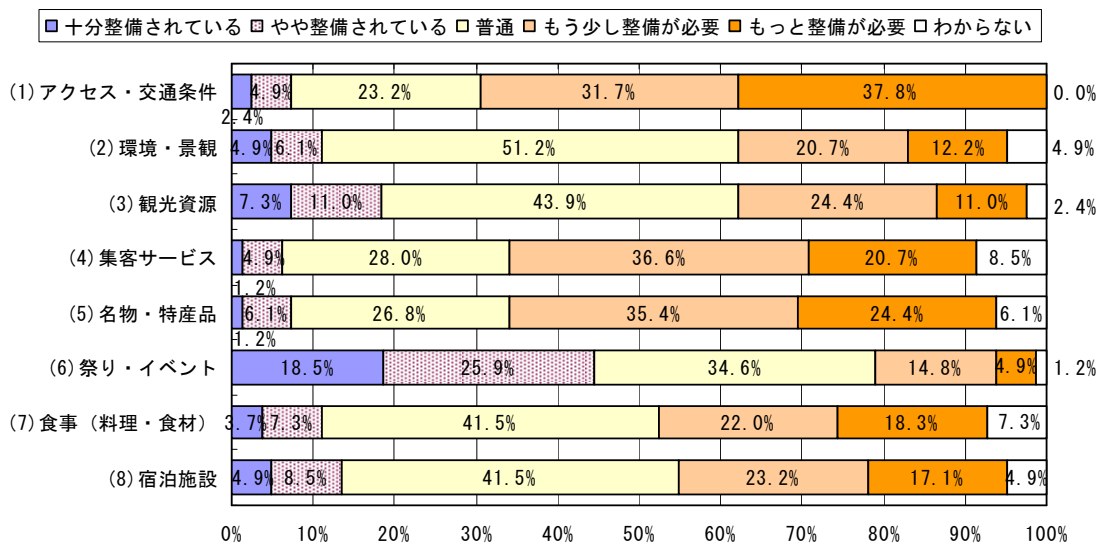
合計得点(1位:3点, 2位:2点, 3位:1点)



(時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力)

・祭り・イベントの評価が高くなっている。「整備が必要」の回答が多かったのはアクセス・交通条件, 名物・特産品となっている。

新居浜の魅力度について



イ. 地域住民による評価（まとめ）

a. 地区別評価

地域住民により評価された点，認知度が低い点，魅力に乏しく課題として挙げられる点はそれぞれ下記のようなものである。

	評価された点	認知度が低い点	課題
岡山	<ul style="list-style-type: none"> ・吉備路の環境（全体的な眺め） ・神社仏閣等の歴史的な景観 ・吉備津神社 	<ul style="list-style-type: none"> ・吉備路ぐるぐるバス ・造山古墳 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設 ・アクセス・交通条件 ・食事（料理・食材）
倉敷児島	<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・鷲羽山からみた眺め ・王子が岳からみた眺め 	（該当無し）	<ul style="list-style-type: none"> ・名物・特産品
呉	<ul style="list-style-type: none"> ・大和ミュージアム ・海軍関係施設 ・観光ボランティアガイドによる案内 ・灰ヶ峰からの景観 ・野呂山からの景観 	<ul style="list-style-type: none"> ・御手洗町並み保存地区 ・漁業体験 ・塩づくり体験 ・豊の歴史の見える丘公園からの景観 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス・交通条件 ・宿泊施設
竹原	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海の多島美 ・町並み保存地区 ・国道沿線からみた景観 ・JR 呉線から見る景観 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期観光バス ・乗ってみて竹原（レンタサイクル） ・たけはら観光ガイド会 ・アヲハタ体験 Jam 工房 	<ul style="list-style-type: none"> ・名物・特産品 ・宿泊施設 ・アクセス・交通条件 ・食事
岩国	<ul style="list-style-type: none"> ・錦帯橋，錦帯橋と錦川の風景 ・観光ボランティアガイドによる案内 ・城山から見おろす風景 ・横山地区の四季の風景 	（該当無し）	<ul style="list-style-type: none"> ・名物・特産品 ・宿泊施設 ・アクセス・交通条件
柳井	<ul style="list-style-type: none"> ・金魚ちょうちん祭り ・白壁の町並みの建物群 ・大島瀬戸の渦潮と大島大橋の景観 	<ul style="list-style-type: none"> ・清狂草堂・月性展示館 ・大島住吉・天神地区等の町並み ・岩尾の滝の景観 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス・交通条件 ・宿泊施設
徳島	<ul style="list-style-type: none"> ・阿波踊り会館，阿波踊り体験 ・ひょうたん島クルーズ ・眉山からの眺望 ・夜間の新川沿い河岸の景観 	<ul style="list-style-type: none"> ・瑞巖寺 ・観光ボランティアガイドによる案内 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス・交通条件 ・宿泊施設
鳴門	<ul style="list-style-type: none"> ・鳴門海峡の景観 ・うず潮，うずの道 	<ul style="list-style-type: none"> ・バルトの楽園 	<ul style="list-style-type: none"> ・祭り・イベント ・宿泊施設
高松	<ul style="list-style-type: none"> ・うどん店 ・栗林公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・イサム・ノグチ庭園美術館 ・塩江のそばうち体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設 ・祭り・イベント

		・栗林公園，玉藻公園のボランティアガイド	
小豆島	・寒霞溪 ・瀬戸内海に沈む夕陽 ・山頂からの眺望	・食の分教場（楽迎員）	・アクセス・交通条件 ・宿泊施設 ・食事
松山	・道後温泉本館 ・松山城，松山城の景観 ・坊ちゃん電車・マドンナバス	・明教館 ・愚陀仏庵 ・ターナー島（四十島） ・庚申庵 ・三津の渡し ・子規堂 ・ロシア人墓地 ・久谷・砥部地区の景観	・集客サービス
新居浜	・マイントピア別子（端出場ゾーン） ・広瀬歴史記念館 ・愛媛県総合科学博物館 ・山から市街地を望む景観	（設問なし）	・名物・特産品 ・アクセス・交通条件

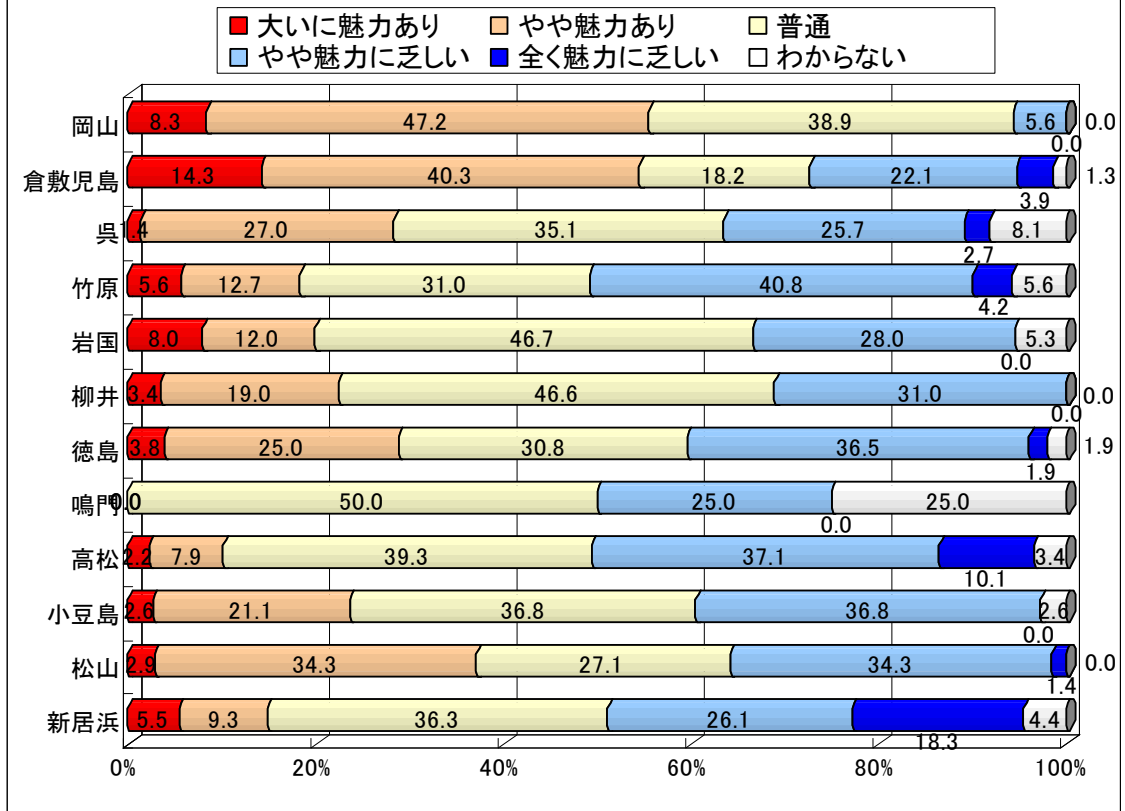
※上記に挙げた点の抽出については，下記の条件により抽出したが，各地域のサンプルの属性が異なるため，地域内の評価バランスも考慮に入れている。

- （抽出条件） ○評価された点　：良い評価が70%程度以上
○認知度が低い点　：「わからない」が40%程度以上
○課題　：良い評価が20%程度以下，又は悪い評価が50%程度以上

b. まとめ

- ①海を感じる景観に対する評価が高い。特に山から海を眺める景観（鷺羽山，王子が岳，灰ヶ峰，野呂山，小豆島，新居浜など）の評価が高く，瀬戸内海沿岸の多くの住民にとって愛着のある多島美景観が各地にあることがわかる。今後の展開として瀬戸内海の展望地のPRや各地域での展望地管理が望まれる。
- ②錦帯橋，道後温泉など有名観光資源の評価は高いが，それ以外は認知度が低いものも多い。また，課題として名物・特産品，食事，宿泊施設が挙げられているところが多く，スロートゥリズム型観光地の魅力づくりのための共通の課題と言える。
- ③体験メニューについては認知度が低いものが多く，地域住民が経験していないことがわかる。今後，スロートゥリズムを進めていく上で体験メニューの充実が必要であるが，まずは地元住民が経験することも重要である。
- ④ボランティアガイドについては評価されているところと認知度が低いところがある。評価を得ているところは，ボランティアガイドが住民にとって身近な存在であり，メンバー募集や支援について協力的であることがうかがえる。
- ⑤時間をかけてゆっくり回る観光地の魅力としては，岡山，倉敷（児島地区）では良い評価を得ているが，その他の都市ではあまり評価を得ておらず，全体としてスロートゥリズム型観光地としての魅力が認識されているとはいえない（次ページ図参照）。

時間をかけてゆっくり回る観光地としての魅力度(総合評価)



3. 成果と今後の取組方向

(1) 地域研究会での成果

①観光まちづくりの関係者が集まって話し合う場（地域スローツーリズム研究会）の構築

各地域で、地域づくり活動や集客交流サービス事業などを行っている個人・グループ・NPOなどのキーパーソンや、行政団体、観光協会、商工会議所などが集まり、地域における人的ネットワークが構築できた。

(参考) 参加者からは「平素個々で活動していたグループが、地域研究会の参加により5人5様の色を出し合い、語り合った」など、地域での人の結束が図られたという感想が多くあった。

②地域のスローツーリズムコンテンツの絞り込み（パンフ等での情報発信）

地域の資源や集客サービス創出の取り組みの中から、地域のスローツーリズムコンテンツを絞り込んだ。これらはパンフレット及びウェブ情報としてとりまとめた。

③瀬戸内海スローツーリズムモデルコースの作成（広域連携で検討）

地域のスローツーリズムコンテンツをつないだ瀬戸内海スローツーリズムとしてのモデルコースを各地域から提案し、合同会で検討・作成した。

④瀬戸内海スローツーリズム社会実験モニターコースを選定・実施・評価

合同会において、モデルコースの中から、モニターツアーコースを選定し、社会実験として実施した。一般観光客及び専門家より評価を受け、成果と課題を把握した。

⑤各地域の情報交換の場（ネットワーク組織）の設置

12の地域研究会のメンバーに集まってもらう合同会を2回開催し、各地域の情報交換・交流の場を設置し、これにより、地域からのスローツーリズム創出の競争意識を高めるとともに、広域連携のためのソフトインフラが構築できた。

(参考) 参加者からは「他市においてもそれぞれ努力されていることがうかがわれ、また非常に参考になること大」、「県外の自治体の取り組みや課題については、2回の合同会に参加して初めてわかった」、「地域研究会（合同会）の参加により、各地域の会員の情熱に“惹かれっぱなし”」、「他地域の様々な取り組みや先進事例が情報提供され、大変有意義な機会であった」などの感想があった。

(2) 今後の取組方向

ア. 地域スローツーリズム研究会について

各地域の取り組み状況は一樣ではないが、今後の方向性として以下の3つの方向で活動を継続していくことが考えられる。

- ①個々の活動を継続させ、同様のテーマで活動している他地域のグループと情報交換をしながら、地域のスローツーリズムを推進する。(テーマ別活動型)
- ②様々な活動をしている人を集め、地域研究会として集まることにより、地域内で情報を共有し、地域が一体となって地域のスローツーリズムを推進する。(地域研究会型)
- ③地域の情報を集約し、コーディネート機能を持った着地型エージェントを組織化することにより、旅行代理店と連携して集客したり、個人客への情報提供・案内などをしたりしながら、地域のスローツーリズムを推進する。(着地型エージェント型)

(参考資料)

(合同会での意見)

- ・各地域で状況は異なっているが、スローツーリズムの検討は継続していきたい。様々な主体が集まることだけでも意味がある。
- ・地域の様々な資源やサービス(ボランティアガイドなど)を、コミュニティビジネスとして展開することができれば、地域がスローツーリズムで活性化することもできる。
- ・地域情報を一体的に集約し、着地型エージェントとして大手旅行会社から手配依頼を受託できるようになれば、ビジネスモデルとしてよい方向である。

(地域研究会参加者からの意見)

- ・地域研究会に参加している各市から、共通した1点に限り(例えば歴史的なもので共通するもの等)持ちより、それによるツアーを組むことも面白いかと思う。
- ・来年度以降も瀬戸内海スローツーリズムに関する協議は可能。
- ・来年度以降の動きについては、地域の気運や資金の確保など、さまざまな課題はあるが、何とかスタートを切る必要があるのではないかと思う。
- ・地区の特性ある活動に、中国、四国の仲間とスタッフの皆さんの笑顔、情熱、闘志を宝として、スローツーリズムの新しいメニューを開発したい。
- ・一過性のもではなく、形態はともかく研究・検討する必要があると考えており、そのことは中心スタッフも共通の認識です。

イ. 瀬戸内海スローツーリズムの連携組織について

地域連携のレベルは様々であり、以下の3つのレベルについて、同時並行的に実施していくことが考えられる。

- ①「瀬戸内海スローツーリズム通信」を発行（メールまたはFAX）し、各地のスローツーリズム活動状況を瀬戸内海沿岸地域の方々に知らせるなど、情報共有の場づくりを図る。（情報共有型）
- ②食・遊び・歴史などのテーマ、あるいは地理的な条件などで、連携した集客ルートの形成や、一体的なPR活動、相互交流活動などを、参加者が自発的に行う。（勝手連型）
- ③沿岸各地で活動している人を集めた「瀬戸内海スローツーリズム交流会」を沿岸各地で巡回開催し、各地のスローツーリズムを体験しながら、参加者同士の情報交換の場づくりを図る。（情報交換型）

（参考資料）

（合同会での意見）

- ・各地からの参加者が交流する機会は大変有意義で、今後も継続すべき。
- ・お互いを知ることが重要であることから、合同会の開催は各地域を巡回で開催し、それぞれの地域のスローツーリズムの魅力を体験することが必要。
- ・行政や補助金に頼らず、「瀬戸内勝手連」として、連携したい民間同士がつながり、瀬戸内海をフィールドにスローツーリズムを展開していく方向もある。

（地域研究会参加者からの意見）

- ・合同会の開催場所（地）ですが、できれば12市の中から1市を選び、そこで開催するのも良いかと思います。
- ・会場はいろいろ変化をつけて、コンベンション観光の振興の点からも、各地域を巡回してはどうだろうか。
- ・単に瀬戸内というくくりではなく、歴史や文化、生活など、テーマでつながるということがもっとできれば良いと思います。そのような点から言うと、普段からのつながりがもっとあれば良いと思います。
- ・会場を竹原、岩国、呉、倉敷、柳井、松山など、持ち回りでやれば良い。もっとお国自慢すれば良い。会議ではなく“寄り合い”にしよう。
- ・理想は、この形に最小限の都市を加え、継続した検討ができることがベストと考えます。